

# 山元町教育委員会に関する点検評価報告書

(平成29年度事業)

平成30年12月

山元町教育委員会

## 目 次

I	はじめに	
1	点検及び評価の趣旨	1
2	点検及び評価に対する事務の対象	1
3	点検及び評価の実施方法	1
4	評価結果の取扱い	
II	山元町教育振興基本計画	
1	基本方針	2
2	計画の目標	2
3	基本方向と基本施策	2
	基本方向1 学ぶ力と自立する力の育成	2
	基本方向2 豊かな人間性や社会性、健やかな身体の育成	3
	基本方向3 信頼され魅力ある教育環境づくり	3
	基本方向4 家庭・地域・学校が協働して 子どもを育てる環境づくり	3
	基本方向5 伝統・文化の尊重と国際理解を育む教育の推進	4
	基本方向6 生涯にわたる学習・文化・スポーツ活動の推進	4
	基本方向7 防災教育をとおした命を守る意識の高揚	4
III	点検及び評価の結果	
1	教育委員会の活動	4
2	教育関係経費決算の状況	7
3	学校教育の充実	8
4	生涯学習の充実	1 2
5	点検評価表 (山元町教育振興基本計画アクションプランに基づく点検評価表)	2 1
IV	学識経験者の意見書	5 1
V	参考法令	5 5

# 山元町教育委員会に関する点検評価報告書

## I はじめに

### 1 点検及び評価の趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条第1項の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとされています。

山元町教育委員会では、今後の効果的な教育行政の推進及び町民への説明責任を果たすことを目的として、教育委員会の事務の点検及び評価を実施し、その結果を報告書としてまとめました。

### 2 点検及び評価に対する事務の対象

「山元町教育振興基本計画（アクションプラン）」に定める施策に関する事務事業のうち、平成29年度において教育行政の推進上、重要な課題に係るもの及び重点的、継続的な事業等（昨年度の事務事業において課題があるとされているもので継続して評価すべき事業）その他点検評価を行うことが必要と認める事業を対象としました。

### 3 点検及び評価の実施方法

点検及び評価については、対象事業ごとに必要性、効率性、公平性の観点から教育委員会事務局内部による自己総合評価を行い、さらに点検評価の客観性を確保するために教育に関する有識者の意見を聴取し、点検評価表を作成しました。平成29年度の山元町教育委員会が所管する事業の取り組み状況を総括するとともに、そこでの課題や、今後の方向性を示しつつ、学識経験者の意見を付したうえで取りまとめを行うものとします。

なお、結果を取りまとめた報告書については、山元町議会に提出するとともに、公表するものとします。

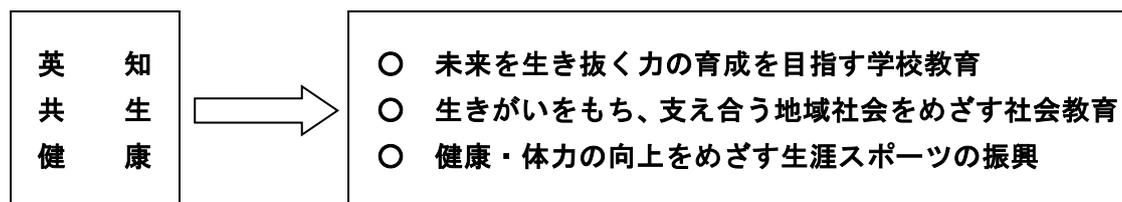
### 4 評価結果の取扱い

この点検評価結果については、評価の高い事業については、引き続き実施し評価の低い事業については、課題や問題の解決を行うと同時に事業の見直しについて検討し、翌年度以降における施策、事業の改善に役立てるものとします。

## Ⅱ 山元町教育振興基本計画（平成 29 年度～平成 33 年度）

### 1 基本方針

復興から新しいまちづくりをめざす山元町の豊かな自然と風土の中で、家庭及び地域の教育力を生かし、心豊かでたくましい人間形成を図るとともに町民の生涯にわたる学習の充実を努める。



### 2 計画の目標

本町教育が5年間で目指す姿の実現に向けて、具体的には、4つを「計画の目標」として取り組みます。

- 目標 1 夢と志を持ち、その実現に向けて自ら考え行動し、社会を生き抜く人間を育む。
- 目標 2 家庭・地域・学校の教育力の充実と連携の強化を図り、山元の豊かな教育資源を生かしながら、社会全体で子どもを守り育てる環境をつくる。
- 目標 3 次代を支える社会の一員として、歴史が培ってきた文化や規範を尊重し、思いやりの心に富んだ人間を育むとともに他の文化の理解を深める。
- 目標 4 生涯にわたり学び、互いに高め合い、充実した人生を送ることができる地域社会をつくる。

### 3 基本方向と基本施策

本計画では、目指す姿の実現を目指し、4つの計画目標のもと、7つの基本方向及び基本施策に取り組みます。

#### 基本方向 1 学ぶ力と自立する力の育成

(1) 「志教育」の推進

(2) 基礎的な学力の定着と活用する力の伸長 **重点的事項①**

(3) 学校間、幼稚園・保育所・小学校の連携促進 **重点的事項②**

(4) 時代の要請に応えた教育の推進

(5) 一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進

## **基本方向2 豊かな人間性や社会性、健やかな身体の育成**

(1) 感性豊かでたくましい心を持つ子どもの育成と支援 **重点的事項③**

(2) 健康な身体づくりと体力・運動能力の向上 **重点的事項④**

(3) 食に関心を持ち、元気な子どもの育成

(4) 心身の健康を保つ学校保健の充実

## **基本方向3 信頼され魅力ある教育環境づくり**

(1) 開かれた学校づくりの推進

(2) 学習環境の整備充実 **重点的事項⑤**

(3) 教職員を支える環境づくりの推進

## **基本方向4 家庭・地域・学校が協働して子どもを育てる環境づくり**

(1) 親の「学び」と「子育て」を支える環境づくり

(2) 地域と学校との協働による学校支援の仕組みづくり **重点的事項⑥**

(3) 子どもたちの体験活動の推進 **重点的事項⑦**

- (4) 家庭教育の充実

#### 基本方向5 伝統・文化の尊重と国際理解を育む教育の推進

- (1) 伝統・文化の尊重
- (2) 国際理解を育む教育 **重点的事項⑧**

#### 基本方向6 生涯にわたる学習・文化・スポーツ活動の推進

- (1) 地域をつくる生涯学習・文化芸術の推進
- (2) 文化財の保護と活用
- (3) 生涯スポーツ社会の実現に向けた環境の充実 **重点的事項⑨**

#### 基本方向7 防災教育をとおした命を守る意識の高揚

- (1) 防災教育の推進、充実 **重点的事項⑩**
- (2) 地域の自主防災訓練や町総合防災訓練への参加
- (3) 震災遺構の活用

### Ⅲ 点検及び評価の結果

#### 1 教育委員会の活動について

山元町教育委員会は、山元町長が町議会の同意を得て任命した5人の委員により組織される合議制の執行機関であり、その権限に属する教育に関する事務を管理執行しています。

平成28年10月1日からは、一部改正後の地教行法の規程に基づき、委員長と教育長を一本化した新教育長が任命され、事務を執行しています。(新制度)

教育委員会の会議は、毎月定例会を開催し(必要に応じて臨時会を開催します。)、各種議案の審議などを行います。

また、小・中学校や社会教育施設の実情等を把握するとともに、学校経営・授業等に対し指導助言を行うため、学校や社会教育施設を訪問しています。

- (1) 教育委員会委員

①平成29年4月1日から6月30日まで

職名	氏名	任期
教育長	菊池卓郎	平成28年10月1日～平成31年9月30日
教育長職務代理者	大内悦夫	平成24年4月1日～平成32年3月31日
委員	島田さゆり	平成21年7月1日～平成29年6月30日
委員	荻原美智絵	平成25年10月1日～平成29年9月30日
委員	齋藤房江	平成26年10月1日～平成30年9月30日

②平成29年7月1日から平成30年3月31日まで

職名	氏名	任期
教育長	菊池卓郎	平成28年10月1日～平成31年9月30日
教育長職務代理者	大内悦夫	平成24年4月1日～平成32年3月31日
委員	荻原美智絵	平成25年10月1日～平成31年3月31日
委員	齋藤房江	平成26年10月1日～平成30年9月30日
委員	菅野正彦	平成29年7月1日～平成33年3月31日

(2) 定例会の開催について

区分	期日	付議事件等（主な審議事項を掲載）
第1回定例会	平成29年4月17日	①山元町奨学金貸与選考委員会委員の委嘱について ②山元町社会教育委員の委嘱について ③職員の分限懲戒処分に関し議決を求めることについて
第2回定例会	平成29年5月24日	①山元町公民館管理運営等に関する規則の一部を改正する規則について ②山元町教育委員会行政組織規則の一部を改正する規則について
第3回定例会	平成29年6月23日	①事務委任の協議について ②山元町防災拠点・地域交流センター条例施行規則の制定について ③一般職員の人事について
第4回定例会	平成29年7月25日	①平成30年度使用教科用図書の採択について ②平成29年度教育功績者表彰候補者について ③社会教育委員の委嘱について ④一般職員の人事について
第5回定例会	平成29年8月25日	①山元町教育委員会に関する点検評価報告書について

第6回定例会	平成29年9月26日	①山元町小・中学校再編検討委員会設置要綱について ②町職員の人事について
第7回定例会	平成29年10月26日	①山元町教育委員会苦情申立審査委員会の組織及び運営に関する要綱の一部を改正する訓令について
第8回定例会	平成29年11月21日	①指定文化財「茶室及び蓑首城大手門並びに板倉」に関する山元町文化財保護委員会への諮問に対する答申期限の変更について ②職員の分限懲戒処分に関し議決を求めることについて
第9回定例会	平成29年12月25日	・報告案件のみ
第10回定例会	平成30年1月25日	・報告案件のみ
第11回定例会	平成30年2月15日	①指定文化財「茶室及び蓑首城大手門並びに板倉」について ②山元町防災拠点・地域交流センター条例施行規則の一部改正について ③平成30年度教育関係当初予算案に対する意見聴取について ④県費負担教職員の人事について
第12回定例会	平成30年3月26日	①平成30年度山元町教育基本方針について ②山元町教育相談員の委嘱について ③山元町文化財保護委員の委嘱について ④山元町地域学校協働本部設置要綱について ⑤山元町地域学校協働活動コーディネーター等設置要綱について

### (3) 臨時会の開催について

区分	期日	付議事件等（主な審議事項を掲載）
第1回臨時会	平成29年7月11日	①平成30年度使用教科用図書採択計画書について
第2回臨時会	平成30年3月19日	①一般職員の人事について

### (4) 山元町総合教育会議の開催について

期日	会場	主な議題等	出席者
平成29年5月24日	講義室	1 「教育等の振興に関する施策の大綱」について 2 山元町内小・中学校の再編について 3 生涯学習関係施設等の今後の取り組み	町長、教育委員5名

		みについて	
平成 29 年 11 月 21 日	講義室	1 町立小・中学校再編検討状況について 2 学校施設の今後の取り組みについて 3 町民グラウンドの現状等と今後の展望について 4 旧中浜小学校震災遺構・震災メモリアル広場整備事業について	町長、教育委員 5 名

一部改正された地教行法の規程に基づき策定した山元町総合教育会議運営要綱の規程に基づき、町長と教育委員で構成された総合教育会議が 5 月と 11 月に開催されました。

#### (5) 教育委員の教育機関訪問

期 日	訪問先	主な内容等
平成 29 年 6 月 23 日	山下小学校 山下第一小学校 坂元地域交流センター	山下小学校（給食試食）、山下第二小学校 ・学校経営方針等説明・授業参観 ・意見交換等
平成 29 年 8 月 25 日	山下地域交流センター	・現場説明・意見交換等
平成 29 年 9 月 26 日	山下中学校 坂元中学校	山下中学校（給食試食）、坂元中学校 ・学校経営方針等説明・授業参観 ・意見交換等
平成 29 年 12 月 25 日	旧中浜小学校 茶室 体育文化センター	・現場説明・意見交換等
平成 28 年 12 月 25 日	坂元小学校 山下第二小学校	坂元小学校（給食試食）、山下第二小学校 ・現場説明・意見交換等

## 2 教育関係経費決算の状況

平成 29 年度決算額は、教育費 9 億 2, 501 万 1 千円、前年度比 23.9 パーセントの減少でした。

主な減少理由としては、防災拠点・坂元地域交流センター建設費が減少したものです。

なお、平成 28 年度の文教施設災害復旧費については山下第二小学校建設工事に要した決算額 11 億 1, 072 万 2 千円です。

#### ○目的別決算の状況

(単位：千円)

区 分	平成 29 年度		平成 28 年度		増減額	増減率
	決算額 (千円)	構成比 (%)	決算額 (千円)	構成比 (%)		
教育総務費	72,933	7.9	78,087	6.4	△5,154	△6.6
小学校費	151,692	16.4	109,985	9.1	41,707	37.9

中学校費	130,483	14.1	138,973	11.5	△8,490	△6.1
幼稚園費	13,860	1.5	11,354	0.9	2,506	22.1
社会教育費	530,506	57.4	867,655	71.3	△337,149	△38.9
保健体育費	25,537	2.7	10,134	0.8	15,403	152.0
教育費 計	925,011	100.0	1,216,188	100.0	△291,177	△23.9
文教施設災害復旧費	0		1,110,722		△1,110,722	—
教育関係経費 合計	925,011		2,326,910		△1,401,899	△60.2

○性質別決算の状況

(単位：千円)

区 分	平成 29 年度		平成 28 年度		増減額	増減率
	決算額 (千円)	構成比 (%)	決算額 (千円)	構成比 (%)		
人件費	186,827	20.2	249,013	20.5	△62,186	△25.0
物件費	252,264	27.3	197,575	16.2	54,689	27.7
維持補修費	58,917	6.4	11,028	0.9	47,889	434.2
扶助費	25,264	2.7	26,395	2.2	△1,131	△4.3
補助費等	28,018	3.0	20,045	1.7	7,973	39.8
普通建設事業費	370,443	40.0	704,700	57.9	△334,257	△47.4
積立金	2,438	0.3	6,592	0.5	△4,154	△63.0
貸付金	840	0.1	840	0.1	0	0.0
教育費 計	925,011	100.0	1,216,188	100.0	△291,177	△23.9
文教施設災害復旧費	0	—	1,110,722	—	△1,110,722	1.0
教育関係経費 合計	925,011	—	2,326,910	—	△1,401,899	60.2

### 3 学校教育の充実

(1) 小・中学校再編検討について

山元町小・中学校の児童及び生徒にとってよりよい学びができる環境をつくる観点から、小・中学校の再編等について総合的な検討を行うため、平成29年11月に保護者代表、地域住民代表、学校関係者、学識経験者を委員とした、再編検討委員会を設置し、これまで、6回の検討委員会の開催、住民意向調査、教職員ヒアリング調査、丸森町視察研修などを実施したものです。

この事業は、引き続き、平成30年度についても実施しています。

○検討委員会等開催の概要

期日	委員会等	概要
平成29年11月14日(火)	第1回町小・中学校	委嘱状交付、現状と課題の説明、学校適

	再編検討委員会	正規模、県内及び町内児童・生徒の推移、複式学級について整理、スケジュール等について確認
平成29年11月30日(木)	第2回町小・中学校再編検討委員会	各意向調査原案や基礎調査の報告、意向調査実施の確認
平成29年12月19日(火)	第3回町小・中学校再編検討委員会	各意向調査原案の確認、今後のスケジュール等について確認
平成30年1月15日(月) ～ 平成30年1月29日(月)	小・中学校再編検討にかか る意向調査	地域住民(無作為抽出)1,200人 全小・中学校保護者625世帯 2幼稚園・1保育所町内居住の全保護者232世帯
平成30年1月24日(水)	第4回町小・中学校再編検討委員会	教職員ヒアリング結果報告、学区・行政区別の状況把握、学校の適正規模について検討・意見交換等
平成30年2月8日(木)	丸森町視察	委員10名参加 複式学級におけるメリット、デメリットの把握
平成30年2月23日(金)	第5回町小・中学校再編検討委員会	意向調査結果(速報値)の報告、丸森町複式学級視察結果について意見交換、再編の方向性検討・意見交換
平成30年3月30日(金)	第6回町小・中学校再編検討委員会	意向調査結果の確認、山二小再建経緯の確認、再編の方向性検討・意見交換

(2) 山元町いじめ問題対策連絡協議会について

山元町いじめ問題対策連絡協議会については、11月13日にいじめ問題対策連絡協議会を開催し、いじめ防止対策について協議を行っております。

なお、平成29年度における山元町のいじめの認知件数等は以下のとおりです。

(平成30年3月31日現在)

学 校 名	学 年						計	状 況	
	1	2	3	4	5	6		継続指導中	解 消
坂元小学校							0		
山下小学校				1			1		1
山下第一小学校					1		1		1
山下第二小学校						1	1	1	
坂元中学校	1	1					2		2
山下中学校							0		
計		1	0	1	0	1	5	1	4

(3) 学力向上に向けた教育講演会の開催について

児童生徒の学力向上のため、小中学校の教員を対象とした、指導力向上研修会を、8月23日、宮城教育大学上廣倫理教育アカデミーの先生方を招いて、「p4cの手法を学ぶ」と題し、教育講演会を開催し、本音を語り合える場づくりで

子どもたちの心を解き放つ環境の重要性について講演いただき、教職員約60人が参加しました。

(4) 学校給食の概要について

学校給食は、成長期にある児童生徒の心身の健全な発達のために、バランスのとれた栄養豊かな食事を提供することにより、健康の増進、体位の向上を図ることに加え、正しい食事のあり方や望ましい食習慣を身に着け、好ましい人間関係を育てるなど多様で豊かな教育的なねらいを持っています。

一方、不規則な食事や偏った食事内容、さらに家庭環境の変化など見過ごすことのできない問題等もみられることから様々な課題等にも対応してきました。

① 給食回数

小学校 171回～179回

中学校 162回～179回

※学校行事等の持ち方によって学校ごとに回数が異なります。

② 給食の形態（完全給食）

米飯給食 週4回（月、火、木、金）

パン給食（麺給食併用） 週1回（水）

③ 給食運営の負担区分

町費負担 給食施設の維持管理経費、人件費、消耗品費等

保護者負担 小学校 278円（児童1人 1食あたりの食材費）

中学校 319円（生徒1人 1食あたりの食材費）

給食の単価については、平成26年2月の学校給食運営審議会で議論された結果、消費税率引き上げに伴う給食費の改定が行われ、平成26年度より小学校は8円、中学校は9円増額しました。平成29年度は据え置きです。

④ 給食調理・給食運搬業務委託事業

・給食調理業務委託事業の委託先は、シダックス大新東ヒューマンサービス株式会社仙台営業所で契約期間は、平成28年4月1日から平成31年7月1日まで、坂元中学校給食室で調理業務を実施しています。

・給食運搬業務委託事業の委託先は、社会福祉法人山元町社会福祉協議会で契約期間は、平成28年4月1日から平成31年3月31日まで、コンテナ車による配送を行っています。配送先は、坂元中学校から坂元小学校へ、及び山下中学校から山下第一小学校及び山下第二小学校です。

⑤ 給食調理等職員数

調理場	栄養士	栄養教諭	臨時栄養士	給食従事員 (含む臨時職員)	計	備考
坂元中学校	1名			業務委託 5名	6名	
山下中学校		1名	1名	7名	9名	

⑥ 特色ある事業

保健福祉課と産業振興課との共同で郷土料理（はらこめしづくり）体験事業を小学校5年生を対象に全小学校で実施しています。

山下第一小学校	平成29年11月2日 17名	山下第二小学校	平成29年11月7日 18名
山下小学校	平成29年11月1日 34名	坂元小学校	平成29年11月6日 27名

・実施に当たっては、宮城県漁業協同組合山元支部と山元町食生活改善推進員協議会から食材の提供や調理等の指導の協力をいただいています。

⑦ 食材の放射性物質検査について

食品放射能測定システムによるセシウム134・137の検査を実施

平成24年4月25日より週2回、2種類の検査を実施、平成29年度は、延べ80回検査を実施し、検査結果は、いずれも厚生労働省が示す放射性セシウムの新基準値を下回るか不検出でした。

⑧ 山元町立学校給食運営審議会を開催

期 日	会 場	主 な 議 題 等	備 考
平成30年2月14日	中央公民館 会議室	1 平成29年度学校給食運営について 2 平成30年度学校給食運営について	

#### 4 生涯学習の推進

平成29年3月に策定した、山元町教育基本計画アクションプランに基づき、社会教育の活動推進、地域文化の保護と活用、並びに社会体育と生涯スポーツの振興を重点施策とし、併せて地域コミュニティの再構築を目的とした協働教育を推進するなど、住民主体による家庭、地域、学校等が一体となった協働によるまちづくりに取り組みました。

中でも、より一層の協働教育の連携強化を図るため、協働教育コーディネーターを引き続き配置し、事業を推進しました。

また、住民や各種社会教育団体の生涯学習意欲の高まりに応えるため、生涯学習施設・社会体育施設の維持管理・利用調整等を行い、活動の支援を行いました。

##### (1) 家庭・地域・学校が協働して子どもを育てる環境づくり

###### ① 親の「学び」と「子育て」を支える環境づくり

子育てに関するスキルの向上を図るため、子育て期間中の親と、支援を行う関係諸団体等に対し、有益な情報や学習機会を提供しました。

###### ア 子育てサポーターの養成

No.	事業名	期間	回数	参加者数(人)	備考
1	子育てサポーター・リーダーネットワーク研修会	7/5 ・ 2/7	2	14 (延べ)	主催：宮城県教育委員会 (みやぎらしい家庭教育基盤形成事業)
2	子育てサポーター・リーダー養成講座	9/5 ～ 12/8	4	26 (延べ)	主催：宮城県教育委員会(みやぎらしい家庭教育基盤形成事業)
3	子育てサポーター養成講座	5/30 ～ 7/4	4	17 (延べ)	主催：宮城県教育委員会(みやぎらしい家庭教育基盤形成事業)
4	宮城県家庭教育支援チーム員研修会	5/9 ～ 10/25	3	9 (延べ)	主催：宮城県教育委員会(みやぎらしい家庭教育基盤形成事業)
5	家庭教育支援チーム「つばめ」スタッフ研修会	11/3	1	19	・錦が丘ヒルサイドモール・感性の森の視察 ・旧伊達亭・鍾景閣での食育研修
6	市町村家庭教育支援関係職員研修会	4/26	1	2	

イ 家庭教育支援チームの活動支援

No.	情報紙名	会員	活動等
1	家庭教育支援チーム「つばめ」	27名	毎月定例会（スタッフ会議、情報誌発行（年6回 各回600部）、家庭教育学級等支援

ウ 子育てサークルの活動支援

子どもセンターを主な活動の場とし、活動及び運営の補助を行った。

No.	団体名	内容	活動日等
1	育児サークル「なかよし会」	親子共同保育	毎週木曜日 19家族

② 地域と学校との協働による学校支援の仕組みづくり

- ア 地域学校協働本部の設置に向けた要綱の作成、人材の確保、本部の組織化と運営  
 ※平成30年4月施行を目指し調整を行いました。

イ 地域人材を活用した学校教育活動の支援

小中学校の要望に応じて、協働教育コーディネーターを通じ、スポーツ推進委員や指導者、安全見守りボランティアの情報提供及び連絡調整を行い、協働教育の充実を図りました。

No.	学校名	学年	時期	内容	備考
1	山下小	1・2	4/14	交通安全教室安全見守り	ボランティア5名 生涯学習課1名
		全	6月	スポーツテスト計測補助	ボランティア3名
		1・2	6/9	校外学習	ボランティア2名 生涯学習課1名
		全	9/22	縦割り山登り安全見守り	ボランティア11名 生涯学習課1名
		全	9/21	巡回小劇場「とらのおんがえし」	劇団「ともしび」
		全	11/22	持久走大会安全見守り	ボランティア8名 生涯学習課2名
		全	通年	読み聞かせボランティア	ボランティア6名 (年20回)
2	山一小	全	通年	読み聞かせボランティア	ボランティア6名 (年20回)
		全	通年	見守り活動	ボランティア
3	山二小	全	4月～	見守り活動	ボランティア61名
		全	6月	スポーツテスト計測補助	ボランティア3名
		2	11月～	地域方々との交流 (2回実施)	講師2名

		1～2	2月	国際理解交流活動	講師1団体(6名)
		全	通年	読み聞かせボランティア	ボランティア7名 (年20回)
		全	通年	見守り活動	ボランティア40名
4	坂元小	全	6月	スポーツテスト計測補助	ボランティア3名
		1～2	2月	国際理解交流活動	講師1団体(6名)
		全	通年	読み聞かせボランティア	ボランティア7名 (年20回)
		全	通年	見守り活動	ボランティア40名
5	山下中	2	5/10 ～12	職場体験活動 (受入事業所調整等)	協力事業所60か所 協働教育コーディネーター 1名
6	坂元中	2	9/12 ～14	職場体験活動 (受入事業所調整等)	協働教育コーディネーター 1名

#### ウ 放課後子ども教室活動の充実

No.	事業名	期間	回数	登録者数(人)	備考
1	はまっこキッズ (坂元小対象)	5/12 ～ 3/9	30	17 (延べ561)	会場:坂元小学校・坂元 公民館 スタッフ数13人 (延べ180人)
2	みやまっこクラブ (山下小・山一小・ 山二小対象)	5/8 ～ 3/5	29	26 (延べ435)	会場:山下第一小学校 スタッフ数9人 (延べ174人)

### ③ 子どもたちの体験活動の推進

#### ア 地域の教育資源(ヒト・モノ)を活用した世代間交流事業(やまもと楽校等)の実施

No.	事業名	期間	回数	参加者数(人)	備考
1	ジュニア・リーダー 初級研修会 (小学6～中学3年生対 象)	3/24 ～25	1	14	会場:つばめの杜 ひだまりホ ール、勤労青 少年ホーム
2	学校開放 「やまもと楽校」	11/18	1	25 (延べ46)	会場:坂元中学校 協力:町内学校教 職員12人
3	青年活動活性化事業 「勤労ホームロビー ミニコンサート」	12/9 ～ 2/18	3	200 (延べ)	会場:勤労青少年 ホームロビー、つばめの 杜ひだまり ホール

イ 地域の教育資源（ヒト・モノ）を活用した学校と地域との協働による児童生徒への指導

No.	学校名	学年	時期	内 容	備 考
1	山下小	4	8月～	打楽器演奏指導	ボランティア1名
		5	8月	金管バンド指導	ボランティア1名
2	山一小	5・6	9月	合唱指導	ボランティア1名
3	山二小	3	5月～	りんごの学習指導	指導者1名（年5回）
		5	5月～	いちごの学習指導	指導者1名（年4回）
4	坂元小	3	6月～	りんごの学習指導	指導者1名（年5回）
		5	6月～	いちごの学習指導	指導者1名（年4回）
5	山下中	1	3月	職業講話	講師1名
6	坂元中	1	3月	職業講話	講師5名

ウ 社会教育関係団体等育成のための補助金

No.	団体名称	金額（円）	備 考
1	なかよし会	13,000	19名
2	山元町青少年育成推進協議会	70,000	12名
3	山元町小中学校連合父母教師会	20,000	641名
4	山元ボランティアサークル虹	21,000	21名（中13、高8）
5	山元町坂元地区高校生親の会	12,000	7名
6	亘理地区少年補導員協会	68,000	15名
7	山元町文化協会	266,000	330名（34団体）
8	山元町老人クラブ連合会	309,000	168名
9	各単位老人クラブ（5団体）	242,500	@48,500円

エ 社会教育関係団体等育成のための事業参加負担金の助成

No.	団体名称	金額（円）	備 考
1	ジュニア・リーダー中級研修会	648	参加者6名
2	ジュニア・リーダー上級研修会	3,500	参加者1名

オ 姉妹・友好都市シニアリーダー研修・交流会参加者に対する助成

No.	事業名	金額（円）	備 考
1	第21回姉妹・友好都市シニアリーダー研修・交流会	15,000	@5,000円×3人 会場：新地町

④ 家庭教区の充実

ア 家庭教育学級・幼児学級の開催

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	家庭教育・幼児学級 (来春就学予定の幼児と保護者対象) ※ 4小学校で実施	6/8 ~2/9	12	親子 72 組 144 人 (延べ 195 組 390 人)	協力 ・各小学校 ・家庭教育支援チーム「つばめ」 ・県家庭教育支援チーム

イ 家庭教育講座の開催

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	子育てひろば「きらり☆」 (乳幼児・幼児と保護者対象)	6/15 ~ 2/8	6	親子 32 組 (延べ 89 組 122 人)	協力 ・家庭教育支援チーム「つばめ」 ・外部講師

ウ 親子ふれあい事業の開催

No.	事業名	期間	回数	参加者数 (人)	備考
1	親子演劇会 (やまもと幼稚園)	7/4	1	200	鑑賞者:園児、保護者、職員
2	親子ふれあい教室 (つばめの杜保育所)	10/28	1	300	参加者:園児、保護者、職員
3	参加型防災教育ミュージカル「なりきりステージ」	1/31	2	300	主催:一般社団法人ハーグ

(2) 生涯にわたる学習・文化・スポーツ活動の推進

① 地域をつくる生涯学習・文化芸術の推進

ア 町広報誌やホームページ等を通じ、関係機関・団体等が開催する展示会や発表会の情報提供

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	第 4 1 回町民文化祭	11/2 ~3	1	2,500	主催:山元町文化協会
2	第 2 1 回文化推進事業 「ひだまりコンサート」	11/5	1	250	主催:山元町文化協会

イ 国や県の事業（巡回小劇場等）の積極的な活用

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	宮城県巡回小劇場 オペレッタ劇団 演劇「ともしび」 オペレッタ「トラの恩返し」 (山下小)	9/21	1	206	主催：県教育委員会 共催：町教育委員会

② 文化財の保護と活用

ア 文化財標柱の更新等

No.	場所	内容	備考
1	町指定文化財茶室、板倉	文化財説明板設置	2台

イ 無形文化財伝承団体に対し、関係する機関や団体等が開催する発表会等の情報提供

No.	団体名	備考
1	・坂元神楽保存会 ・當護稻荷大神楽保存会 ・坂元おけさ保存会	第41回山元町町民文化祭 (中央公民館：11月3日) 伝統芸能を広く 発表することに 努めた

ウ 文化財保護委員会 開催回数 3回

エ 埋蔵文化財の保護（復興交付金関係）

「合戦原遺跡」38号墓において発見された線刻壁画については、有識者（文化庁、奈良文化財研究所、県、東北歴史博物館等）により重ねられた検討により、「現地保存は困難である」旨が確認されたことから、移設保存（復元）の方法についての指導・支援を受け、現地より取り出し作業を行い、復元に向けた作業が行われています。

また、東日本大震災に伴う復興事業に伴い破壊される恐れのある埋蔵文化財について、復興交付金を活用し、その発掘・調査・記録を行うとともに、昨年度までに現地調査が完了した遺跡の出土品整理を実施した。

オ 埋蔵文化財現地発掘調査実施箇所

No.	遺跡名	行政区	調査原因	調査内容	調査時期	備考
1	畑合遺跡	花釜区	町道山下花釜 線改良工事	確認調査	10月	復興事業
2	笠野B遺跡 ほか1遺跡	笠野区 ほか	東部圃場整備	確認調査	9・10月	復興事業

カ 埋蔵文化財整理事業

No.	遺跡名	行政区	調査原因	業務内容	備考
1	合戦原遺跡	合戦原区	防災集団移転等	出土品の整理	

キ 埋蔵文化財の保護（その他の開発に係る事業）

民間事業者等による開発に伴い、その発掘調査を実施した下記の遺跡に関し、出土物の整理当及び刊行を行いました。

No.	遺跡名	行政区	調査原因	現地調査期間	備考（作業内容）
1	日向遺跡	鷲足区	土砂採取	H28. 4月 ～6月	出土物及び記録集の整理 発掘調査報告書の刊行
2	川内遺跡	中山区	土砂採取	H28. 4月 ～H29. 3月	
3	鷲足館跡	鷲足区	土砂採取	H28. 1月 ～3月	

ク 文化財包蔵地の環境整備

町内の遺跡に設置している標識について、経年劣化により更新が必要な標柱の建て替えや、町の史跡である中島館跡・愛宕山館跡・大條氏御廟・茶室等の草刈り、枝払い等を実施し、環境整備に努めました。

ケ 伝統文化の保存と展示・活用と活動場所の環境整備

歴史民俗資料館において、町内に残る貴重な文化遺産（歴史・美術・民俗的な資料や自然環境に関する資料）の収集保存・整理を行い、収蔵品は常設展により展示することに併せ、『収蔵資料展』、企画展『発掘された山元町一常磐道関連遺跡 発掘調査成果展 3-1』を開催し、広く歴史文化の理解と振興に努めました。

併せて、関係する資料館等との情報共有を図るため、協議会等に参画し、情報交換や運営を行いました。

コ 文化財行政団体への参画及び負担

No.	団体名称	金額（円）
1	宮城県史跡整備市町村協議会	4,500

サ 団体への補助金の交付

No.	団体名称	金額（円）
1	坂元おけさ保存会	10,000

③ 生涯スポーツ社会の実現に向けた環境の充実

ア 町民グラウンドの復旧及び備品等の整備

震災前に広く町民に活用されていた町民グラウンドについて、平成29年9月末に仮設住宅入居者が退去となったことから、県による仮設住宅解体・撤去及び町民グラウンドの復旧作業が開始となりました。関係する備品についても町民グラウンドの復旧に合わせ購入するため関係団体との調整を行いました。

テニスコートについては、引き続き震災関連の物資倉庫用地として使用されています。

イ スポーツ振興くじ等を活用した運動器具の更新

H29年度は3台の更新を行った。

No.	器具名	台数
1	アクティベート（トレッドミル）	1
2	ハンマーストレングス（フライ）	1
3	オプティマ（レッグカールエクステンション）	1

ウ 事業実施状況

No.	事業名	期間	回数	参加者数 (人)	備考
1	トレーニング器具 取扱い講習会	10/27 ～ 3/23	3	12	会場：体育文化センター 指導者：スポーツ推進委員
2	未来への道 1,000 km 縦断リレー	7/31	1	6	タスキ中継所：山一小、役 場、体育文化センター
3	宮城ヘルシー2017 ふるさとスポーツ祭 仙台管内大会	9/9	1	25	会場：県総合運動公園 主催：県・県教育委員会ほか
4	10,000人寒稽古 (剣道、柔道、空手道)	1/14	1	72	会場：体育文化センター

(※) 山元町から種目毎の出場は、グラウンドゴルフ10人、ペタンク6人、家庭バレーボール13人となりました。

エ スポーツ競技者及び団体等への支援体制の整備

スポーツ団体への助成を行い、広くスポーツの推進を図るとともに、全国大会等へ出場する選手（団体・個人）に対し賞賜金を交付し、スポーツの振興を推進しました。

・全国大会等出場（個人）10,000円 ・国際大会出場（団体）30,000円  
補助金及び賞賜金の交付状況等

No.	団体名称等	金額（円）	備考
1	山元町体育協会	1,246,000	12団体が加盟
2	山元町スポーツ少年団	300,000	オオツボスポーツ寄付分
3	各行政区（地域スポーツ・レクリエーション事業補助金）	50,000	@10,000×5行政区
4	国際大会出場者 （全国大会出場等賞賜金）	150,000	5人（チアリーディング）
	全国大会出場者 （全国大会出場等賞賜金）	100,000	10人（ソフトボール、柔道 空手道、水泳ダンススポーツ）

④ 施設の利用状況

ア 社会教育施設の利用状況

No.	施設名	利用者数（人）	前年度利用者数（人）
1	中央公民館	37,686	40,078
2	勤労青少年ホーム	15,719	20,408
3	山下地域交流センター	25,302	—
4	坂元地域交流センター（坂元公民館）	13,172	13,141
5	深山山麓少年の森	20,052	21,863
6	歴史民俗資料館	1,035	1,214
7	ふるさと伝承館	3,283	3,781

イ 社会体育施設の利用状況

No.	施設名	利用者数（人）	前年度利用者数（人）
1	体育文化センター（武道館を含む）	14,195	16,327
2	山寺深山グラウンド	6,920	3,513
3	真庭グラウンド	4,344	1,250

(3) 防災教育をとおした命を守る意識の高揚

① 震災遺構の活用

ア 震災遺構としての整備・保存【旧中浜小学校震災遺構保存整備事業】

東日本大震災の脅威・教訓を風化させることなく伝承し、後世に防災・減災の意識・知識を向上させるため、震災により被災した旧中浜小学校を「震災遺構として」保存・活用することを目的に、改修設計等業務及び展示等設計業務に着手しました。

旧中浜小学校震災遺構保存整備に係る改修設計等業務委託	
期 間	平成 29 年 12 月 2 日～平成 30 年 11 月 30 日
内 容	校舎改修設計、管理棟新築設計、測量調査、広場設計他

旧中浜小学校震災遺構保存整備に係る展示等設計業務委託	
期 間	平成 29 年 12 月 28 日～平成 30 年 11 月 30 日
内 容	ガイダンスルーム・展示スペースの展示品等のデザイン及び設計、施設内・外部サイン設置計画他

イ その他

- ・旧中浜小学校東側屋根瓦等飛散防止工事（見学者への落下防止対策）
- ・旧中浜小学校侵入防止柵修繕工事（不審者等対策）

山元町教育委員会に関する点検評価報告書（評価表）（抜粋）

山元町教育振興基本計画（アクションプラン）

**（平成29年度事業）**

**【山元町教育委員会】**

山元町教育振興基本計画アクションプランに基づく点検評価表

基本方向1 学ぶ力と自立する力の育成

評価(達成度): A(90%~) B(70%~) C(40%~) D(40%未満) N(評価不能)

(1) 「志教育」の推進

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成29年度		担当課 学校等	
			評価	成果と課題		
「志教育」 の推進	「志教育」を通して、児童生徒が人や社会と関わる中で社会性や勤労観を養い、自らの在り方や生き方について主体的に探求していけるよう、学校の取組について一層の推進・充実を図る。	「志教育」全体計画・年間指導計画の充実と志担当教諭を中心とした組織的・計画的な推進	A	・学校行事や総合、生活科等の学習の中に志教育の視点を位置付け、担当教師を中心とした推進と振り返りをすることができた。	坂元小	
			B	・志教育を推進するために学校行事ごとに志教育の目標を設定し実践した。 ・各教科、特別活動、学校行事における志教育の目標をより具体化する必要がある。	山下小	
			B	・教育活動全体の中で「志教育」を意図的・計画的に実践している。学校評価自己評価では、平均値が3.2であった。	山一小	
			A	・全体計画・年間指導計画を基に各教科・特別活動など教育活動の取組に「かかわる」「もとめる」「はたす」を組み入れた活動を行っている。	山二小	
			A	・計画を基に推進された。	坂元中	
			B	・各学年での取組を、自己の将来や生き方と関連づけて実施し、総合発表会において全生徒がプレゼンを行ない表現力の伸長を図ることができた。	山下中	
		家庭・地域との連携、交流活動や体験活動等の推進	A	・地域の歴史や文化を継承してきた人々の「神楽」や「おけさ」等の思いや願いを体験活動から学ぶことができた。	坂元小	
			A	・オリンピックパラリンピック教育を通して、積極的な体験活動を図ることができた。 ・志シートの活用など、より家庭と連携した取組が必要である。	山下小	
			A	・地域学習やボランティアとの交流、校外学習での見学や体験活動等で人と関わることにより社会性を育むことができた。	山一小	
			A	・挨拶運動、早寝早起き朝ごはん運動等を通して家庭との連携を、地域人材との交流および地域へのボランティア活動を通して地域との連携は充実している。	山二小	
			A	・坂元おけさ体験や地域の敬老会とのグラウンドゴルフ交流会、職場体験、職業人の話を聞く会、話し方教室など地域の方を迎えての学習・交流を行った。	坂元中	
			A	・ボランティア活動等に参加することで、満足感や自己肯定感を味わわせることができた	山下中	
		【その他の評価指標】「将来の夢や目標を持っている」「人の役に立つ人間になりたいと思う」と答えた児童生徒の割合(小6・中3)※「あてはまる」「どちらかどいえばあてはまる」の合計			「将来の夢や目標を持っている」 小: 88.1%、中: 69.3% 「人の役に立つ人間になりたいと思う」 小: 92.6%、中: 91.2%	

(2) 基礎的な学力の定着と活用する力の伸長 **重点的事項①**

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成29年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
教科指導力の向上	児童生徒に「分かる喜び」が実感できる授業を展開するため、校内研修や少人数指導等指導体制の充実を図る。	校内研修の充実に向けた研究主題の設定と研究主任を中心とした組織的・計画的な推進	A	・指導主事学校訪問のB訪問だけでなく、D訪問により学び合うための指導により、自分の考えを深められるようになってきた。	坂元小
			A	・「自ら考え、進んで伝え合う児童の育成」の研究主題に基づき、主体的で対話的な学びを促す指導の在り方について授業を通して検証した。 ・全体で広げたり深めたりする話合いの仕方の指導の在り方について検証を深める。	山下小
			A	・学力向上サポートプログラム事業学校訪問指導等を活用し、指導力向上に向けた共同的研修を計画的に実施することができた。	山一小
			A	・「自分の考えをもち、主体的に表現する児童の育成」を主題として設定し、全教員が研究授業を計画的に実施し一定の成果を得た。	山二小
			A	・年間計画を基に、推進に当たった。	坂元中
			A	・研究主任を中心に、校内研究主題を意識した授業づくりを各教科毎に進めることができた。	山下中
		T Tによる指導、少人数指導等効果的な指導体制の充実	A	・個人差に応じて複数教員で指導方法を確認し、習熟度別の少人数指導やTT指導により、理解が深められている。	坂元小
			N	・本校ではT T指導並びに少人数指導を実施する職員の配当がない。	山下小
			A	・個別指導や支援が必要な児童を職員間で共有し、支援員や担任外の教員による指導体制を整え、学習内容の理解・定着が図れるよう指導することができた。	山一小
			A	・加配を有効活用して、算数科においてはT T指導あるいは少人数指導が行われ、他教科においても必要に応じてT T指導が行われた。	山二小
	B		・全学年の数学と2年の英語についてT Tによる指導を行い、きめ細やかな指導に当たった。	坂元中	
	A		・3年数学・英語において、習熟度別の少人数指導を実施し、個に応じた指導ができた。	山下中	
	A		・宮城教育大学上廣倫理教育アカデミーの先生方を講師に招き、「p4c」の実践的な指導力向上に向け取り組んだ。	学務課	
教員を対象に、指導力向上に向けた研修会等を開催する。	指導力向上研修会等の開催（外部講師等による研修）	A			

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成29年度		担当課 学校等	
			評価	成果と課題		
学力向上に向けた基本的な生活習慣や学習習慣の確立	町内全校共通の「3つの約束」を下敷き等にして児童生徒に配布・指導するとともに、保護者とも連携を図り、基本的な生活習慣・学習習慣を確立する。【28年度から】	改訂版の検討・作成	A	・委員会において、現在使用中の内容を見直し平成30年4月配布に向け準備を進めた。 ・下敷き（小学校児童へ配布）の材質の検討が必要である。	学務課	
学力向上に向けた基本的な生活習慣や学習習慣の確立	町内全校共通の「3つの約束」を下敷き等にして児童生徒に配布・指導するとともに、保護者とも連携を図り、基本的な生活習慣・学習習慣を確立する。【28年度から】	児童生徒に対する適切かつ工夫した指導	A	・教室への掲示や宿題，自主学習等の目安にできるような声掛け等の指導を行っている。	坂元小	
			B	・各教室に掲示するとともに，毎月はじめに活用状況について確認した。 ・家庭との連携の在り方について課題がある。	山下小	
			B	・3つの約束の内容や配付の意義について，学年に応じた具体的指導を継続的に実施する必要がある。	山一小	
			A	・規則正しい生活・家庭学習・ゲーム等の約束について学校全体として共通理解の下指導している。	山二小	
			B	・各学級で説明をしながら配布し，教室にも掲示している。ことあるごとに，各学級で話題とした。	坂元中	
			B	・学級活動の時間を活用し，具体的な指導を行った。	山下中	
		保護者への適切な啓発と連携	A	・家庭への掲示用に各家庭に配布し，継続して啓発に努めている。	坂元小	
			B	・PTA総会，役員会等で保護者への啓発を図った。 ・保護者との意見の交換の機会を設定する必要がある。	山下小	
			B	・学校作成の「家庭学習の手引き」等とも関わらせながら，話題にしたり啓発したりする機会を多くする。	山一小	
			B	・保護者に対しては総会や懇談会において説明し，啓発活動を実施しているものの，連携しての取組とまではない。	山二小	
			B	・学年懇談会などで話題にした。	坂元中	
			B	・プロジェクトチームにより作成された資料を保護者に配布し啓発を行った。	山下中	
		児童生徒の基礎学力向上を図るため、放課後や夏季休業中等の学習支援を実施する。	補助事業を活用した外部指導者による学習支援（平成30年度から小学校でも実施）	A	・まなびの森のスタッフと連携し、数学・英語の授業での指導、放課後の学習指導、3年生の長期休業中の学習指導を実施した。生徒の意欲が高まった。	坂元中
				A	・「まなびの森」による授業支援、放課後学習支援、長期休業中の学習支援を、年間を通して計画的に行うことができた。	山下中
				A	・国の緊急スクールカウンセラー事業を活用し、中学校の授業、放課後、夜間、長期休業中に学習支援を実施した。	学務課

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成29年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
学力向上に向けた基本的な生活習慣や学習習慣の確立	家庭学習ノートを提出させるなど、学校としての具体的な取組について、指導の充実を図る。	日常的な指導と評価	A	・家庭学習を効果的に行っている児童のノートを紹介するコーナーを設置し、相互に見合えるようにした。	坂元小
			B	・家庭学習の習慣化を図るために家庭学習カードを作成している。 ・学習カードの内容や形式について見直しが必要である。	山下小
			A	・家庭学習の内容を示し、時間の目安も提示して習慣化を図ってきた。また、家庭学習ノートへの教員の朱書きを継続し、学習意欲を喚起してきた。	山一小
			A	・「家庭学習のすすめ」を示し、家庭学習のノートの提出に対しては毎日評価して返却するなど充実を図っている。	山二小
			B	・各学級で家庭学習ノートなどに取り組み、意欲も高まった	坂元中
			A	・SUN（ステップアップノート）を全職員で添削指導し、家庭学習の習慣化及び定着を図った。	山下中
			【その他の評価指標】「家庭学習時間（1時間以上）」 「授業が分かる」と答える児童生徒の割合（小6・中3） （「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の計） 「ゲーム・スマホ等の時間（1時間以内）」		「家庭学習時間」 小：47.8%、中：74.8% 「授業が分かる」 小：国語82.1%、算数85.0% 中：国語75.8%、数学61.6% 「ゲーム・スマホ等の時間」 小：41.8%、中：31.9%

(3) 学校間、幼稚園・保育所・小学校の連携促進 **重点的事項②**

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成29年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
学力向上に係る学校間の連携	各校の学力向上プランを町内全校で共有し、指導に生かす。	学力向上プランの作成と共有（研究主任者会）	A	・基礎・基本の定着を目指した言語活動の充実や読む力、書く力の向上、そのための授業力の向上を目的に共通理解して取り組んでいる。	坂元小
			B	・児童の実態に合わせ、学力向上プランを作成した。しかし、プランを実践し、評価することに課題がある。	山下小
			A	・研究主任を中心に学力向上プランを作成し、各校情報や状況を共有することができた。	山一小
			B	・共有については年度内に行えず、平成30年度始めに行うことになった。	山二小
			A	・研究主任を中心に作成に当たり、校内でも共有した。	坂元中
			B	・生徒の実態を踏まえプランの作成に当たったが、具体的な活用までは踏み込めなかった。	山下中

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成29年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
学力向上に係る学校間の連携	授業参観や情報交換など、学力向上に向け小・中学校間の連携促進を図る。	指導主事訪問時の相互参観、小・中情報交換会等の実施	B	・指導主事訪問の要項や資料を中学校に配布したり、相互参観したりすることで情報交換につなげている。 ・学力向上のため小中連携を模索している。	坂元小
			B	・年間計画に基づき小中情報交換会を実施した。 ・指導主事訪問時の授業参観を計画する必要がある。	山下小
			B	・中学校からの出前授業や1日体験入学等で小中連携を図っている。相互参観までは至っていない。	山一小
			C	・中学進学に向けての小中情報交換会はあるが、学力向上を目的とした授業参観や情報交換の場はなかった。	山二小
			B	・指導主事訪問時の相互参観や、授業参観を行った。	坂元中
			A	・小学校へのお出前授業や一日体験入学を年間予定に組み込み、計画的に学校間の連携を図ることができた。	山下中
幼保小の連携・交流の促進	幼稚園・保育所から小学校への円滑な接続が図れるよう、小学校就学前の幼児の情報を共有する。	家庭教育学級及び幼児学級の開催、就学予定児童に関する情報交換会の開催【H29～】	A	・課題のある就学予定者を記録や引継ぎ時だけでなく、実際に見て入学後の対応を考えることにつなげることができた。	坂元小
			A	・幼児学級や情報交換会に基づき、入学前の幼児についての実態を把握することができた。	山下小
			A	・山元支援学校職員による児童観察・報告や情報交換会での情報提供は入学後の児童対応に有効である。	山一小
			A	・学校を会場に家庭教育学級と並行して幼児学級を開催し、就学予定児童の情報を得ることができた。	山二小
			A	・学校、幼稚園、保育所及び山元支援学校と調整を図り、小学校へ円滑な接続が出来るよう努めた。	学務課
			A	・学校、幼稚園、保育所及び山元支援学校と調整を図り、未就学児情報交換会を開催し小学校への円滑な接続が出来るよう努めた。	生涯学習課
		幼保小相互参観、連絡会の開催	A	・入学後の児童の様子や入学して気付く課題等を情報交換したり、指導に役立てることができた。	坂元小
			A	・連絡会を開催することで、情報共有が図られた。 ・今後は、必要に応じて保育参観等が必要である。	山下小
	B	・幼保小連絡会の実施により、就学予定児童についての情報を共有できている。相互参観までは実施していない。	山一小		
	A	・年1回2月に授業公開と幼保小連絡会を実施するとともに、別日に学校職員が幼稚園保育所を参観した。	山二小		

(4) 時代の要請に応えた教育の推進

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成29年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
高度情報化 社会への対 応	情報活用能力の育成とともに、情報モラル教育を推進する。	各教科での指導の充実や「安全教室」の実施等	B	・ICT機器等を指導に生かす準備や効果的な活用の方法等、情報モラルの指導も含め研修することができた。	坂元小
			B	・総合的な学習の時間の年間計画に情報リテラシー教育を計画的系統的に位置付けている。 ・専門的知識を有した外部講師の活用を推進する必要がある。	山下小
			A	・情報活用能力や情報モラル育成を計画的に実施している。SNS等スマホ等の使い方について6年生で学習している。	山一小
			C	・児童対象の「安全教室」は実施できなかったが、6年ではリーフレットを活用した指導は行った。	山二小
			A	・互理警察署生活安全課から講師を呼んでの「安全教室」や、LINE株式会社から講師を呼んでの「ケータイ教室」では保護者と生徒がともに聞くことで成果を上げた。	坂元中
			A	・2学年において、互理警察署の協力を得て「情報モラル教室」を実施した。	山下中

(5) 一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成29年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
特別支援教 育の推進	将来的な自立や社会参加に向けて、発達障害を含め一人一人の発達段階や障害に配慮した校内支援体制等を構築する。	特別支援教育用教材の購入及び特別支援教育支援員の配置と活用	A	・教育的ニーズに応じた個別の指導計画等の適切な支援に基づいた教材の要望に迅速に対応し、活用することができた。	坂元小
			B	・支援員の適正な配置をしていただき、効果的に活用できた。 ・支援員の業務の幅が広がるとより活用しやすい。	山下小
			A	特別支援教育支援員の配置により、充実した個別支援を行うことができた。	山一小
			A	・特別支援教育支援員2名を配置していただき、児童の実態に応じた個別的支援に十分な活用が行えた。	山二小
			N	・特別支援学級なし	坂元中
			B	・2名の支援員配置であったが、3学級ある現状を踏まえると1名の増員が求められる。	山下中
			B	・町負担により各学校に特別支援教育支援員を配置した。 ・各学校の実情に応じた配置数や業務範囲の検討が必要である。	学務課

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成29年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
特別支援教育の推進	将来的な自立や社会参加に向けて、発達障害を含め一人一人の発達段階や障害に配慮した校内支援体制等を構築する。	校内における指導・協力体制の確立、町内交流会の実施等	A	・校内において特別支援コーディネーターを中心とした個別のケース会議をする体制を確立し、情報や指導に対する情報共有ができた。	坂元小
			A	・特別支援コーディネーターを中心に支援体制が整備されている。 ・通常学級における配慮が必要な児童生徒の対応について具体的に検討する必要がある。	山下小
			A	・毎月の「子どもを語る会」や日常的な会話の中で情報を適宜共有し、学校として組織的に対応することができた。特支学級がなかったため、交流会は実施なし。	山一小
			A	・協力学級との関係が確立しており、協力的な指導体制で指導が行えている。また、児童は交流会にも楽しく参加できていた。	山二小
			N	・特別支援学級なし	坂元中
			B	・生徒への個別支援体制の整備はある程度整っていたが、具体的支援内容についての確認が不十分であった。	山下中
	地域における特別支援教育に関する相談・支援機能を持つ山元支援学校との連携・充実を図る。	特別支援教育連絡協議会、就学指導審議会等における協力	A	・山元支援学校教諭の講演など、特別支援教育連絡会を年3回開催し、担当教諭の特別支援に対する理解を深めた。 ・就学相談を通して指導助言を受けることができ、審議会に生かすことが出来た。	学務課
			A	・就学予定児童に関する情報を共有し、指導助言が必要と思われる児童について情報交換することができた。	坂元小
		幼児学級での観察・指導助言、就学予定児童に関する情報交換会における指導助言等	A	・地域コーディネーターによる的確な観察それに基づく指導助言は大変参考となった。	山下小
			B	・幼児学級における山元支援学校との連携により、より多面的な指導助言を受けることができた。	山一小
			A	・山元支援学校との連携により、指導助言をうけることができた。	山二小
			A	・幼児学級等で気になる子の様子を観察してもらい、就学に向けて参考となる助言を受けることが出来た。	学務課
			A	・幼児学級を通じ、幼稚園、保育所、小学校、支援学校との情報交換会を開催し、連携務めた。	生涯学習課

山元町教育振興基本計画アクションプランに基づく点検評価表

基本方向2 豊かな人間性や社会性、健やかな身体の育成

(1) 感性豊かでたくましい心を持つ子どもの育成と支援 重点的事項③

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成29年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
規範意識の醸成やコミュニケーション能力の育成	道徳教育、各教科等での指導、各種体験活動・文化活動等を通して、豊かな人間性や社会性を育てるとともに、特に規範意識、コミュニケーション能力の育成を図る。	「特別の教科 道徳」を中心とした道徳教育の改善・充実	B	・「学校のきまり」や「友達との約束」を守っている児童が100%である。ただし、道徳的な実践力については課題も見られ、さらに指導を工夫する必要がある。	坂元小
			B	・「特別な教科道徳」の実施に向け年間指導計画を作成するとともに別葉を作成した。 ・目標達成に向けて具体的な授業や評価の在り方について研修する必要がある。	山下小
			A	・道徳の時間を中心に教育活動全体の中で、規範意識やコミュニケーション能力の育成に努めた。p4cの手法を学び、活用する教員が出てきた。	山一小
			B	・学年に応じた指導の重点を設定している。 ・全体計画別葉作成は平成30年度となった。	山二小
			B	・平成30年度から本格的に準備に入る。	坂元中
			B	・「特別の教科 道徳」の実施に向けた教員研修等、30年度から本格的に行っていく。	山下中
		各教科等における指導の充実	B	・友達の話は聞けるが、発表やコミュニケーションへの苦手意識が傾向として多く見られ、課題解決のための手立てを考える必要がある。	坂元小
			B	・校内研究を中核として授業改善に努めた。 ・主体的で対話的な学びについての研修を深め、児童のコミュニケーション能力の育成を図る。	山下小
			A	・学級経営として、規範意識やコミュニケーション能力の育成に努めている。さらに教科等の特質に応じた指導を行うことで、人間性や社会性を育てている。	山一小
			A	・体験を重視した指導を重視し、各教科のねらいに言語活動の充実とコミュニケーション能力の育成を図る授業を展開してきた。	山二小
			B	・道徳教育全体計画別様を基に実践した。	坂元中
			A	・「伝え合う力」の伸長を目標に、各教科において発表活動を意図的に取り入れた。	山下中

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成29年度		担当課 学校等	
			評価	成果と課題		
規範意識の醸成やコミュニケーション能力の育成	道徳教育、各教科等での指導、各種体験活動・文化活動等を通して、豊かな人間性や社会性を育てるとともに、特に規範意識、コミュニケーション能力の育成を図る。	各種体験活動・文化活動（中学校は部活動も含む）等における指導の充実	A	・校外学習や見学を通して、集団としての規律や挨拶、聞く態度、質問する態度等、発達段階に応じて指導の継続が必要である。	坂元小	
			A	・学年の発達段階や学習内容に応じた校外学習や体験活動を計画的に実施した。 ・時期や予算(保護者負担の軽減の観点から)等について検討する必要がある。	山下小	
			A	・宿泊体験活動や校外学習等において多様な自然・人・文化・歴史・社会と関わることで、感受性を豊かにし、人間性・社会性を高める一助となった。	山一小	
			A	・児童の体験活動及び文化的活動においてはねらいをもって学校全体共通行動で指導にあたってきた。	山二小	
			A	・全職員が全生徒の指導に当たるという意識を常に持ち、様々な場面で指導に当たった。	坂元中	
			A	・仲間意識や自己有用感を育てる指導を、各部活動で行った。	山下中	
いじめ、不登校等に対する教育相談活動の充実	いじめ・不登校等の問題に対応するための人的配置、関係機関との連携を含めた相談体制の整備と相談活動の充実を図る。	S C、S S W、町教育相談員の配置と相談活動	B	・SSWとの面談等により、不登校傾向であった生徒1名が登校可能になる成果があった。 ・SSWの活用方法について学校へ周知が課題である。	学務課	
			ケース会議、要保護対策連絡協議会、いじめ問題対策連絡協議会等の開催	B	・各関係機関と情報を共有し、要保護児童等への対応を的確に行うことができた。 ・不登校児童に対する対応が課題である	学務課
				B	・要保護児童対策地域協議会を年3回開催し、要保護児童等への適切な支援策を協議した。	保健福祉課
		各学校における教育相談（定期的なアンケート調査の実施、二者・三者面談等）の充実	A	・定期的な教育相談「つながりタイム」を活用し、アンケート結果や児童間のトラブルからのいじめの早期発見、未然防止につなげることができた。	坂元小	
			A	・計画的な教育相談日の設定ができた。 ・他の学校行事との関わりで、設定時期については検討が必要である。	山下小	
			A	・毎月の生活（いじめ）アンケートを実施し、結果を共有することで、課題を抱えている児童に早期に、組織的に対応することができた。	山一小	
			A	・2種類の定期的なアンケートの実施とQ-U調査によって児童の実態把握と問題発見に努めた。	山二小	
			B	・宮城県児童生徒の心のサポート班との連携などに取り組み、生徒の心に寄り添った指導に当たった。	坂元中	
			A	・月1度の「学校生活アンケート」の実施及び事後の相談活動を年間を通して行った。	山下中	
			【その他の評価指標】「自分にはよいところがあると思う」「学校に行くのは楽しい」「小学校に比べ中学校の学校生活は楽しい」と答えた児童生徒の割合（小6・中3）※「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の計			「自分にはよいところがあると思う」小：77.6%、中：66.0% 「学校に行くのは楽しい」小：89.6%、中：84.7%

(2) 健康な身体づくりと体力・運動能力の向上 **重点的事項④**

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成29年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
身体づくり 及び体力・ 運動能力向 上に向けた 取組	授業や行事（中学校は部活動も含む）等を通して、身体づくりについての関心・意欲を高めるとともに、体力・運動能力の向上を図る。	保健体育の授業を中心とした指導の工夫	B	・授業導入時の準備運動の中で、体力づくりに特化した走る活動を位置付け、持久力の向上に努めた。	坂元小
			B	・体力運動能力調査等のデータをもとに、体育の授業や日々の体力向上への取組ができた。 ・体力向上を目指す、環境整備が必要である。	山下小
			A	・保健の学習は養護教諭と連携し、健康へ意識や知識を高めることができた。体育の授業では、学習のねらいを踏まえ、十分な運動量の確保に努めた。	山一小
			A	・授業時間の確保と指導方法の工夫に取り組んだ。	山二小
			A	・授業前の補助運動の工夫に取り組み、生徒一人ひとりが自分の力に合わせてトレーニングに取り組み態度が育成できた。	坂元中
			A	・準備運動の行い方に工夫をし、意図的に体力向上を図った内容とした。	山下中
		運動会や持久走大会の実施など、体力・運動能力の向上につながる行事の工夫	A	・体育の体づくりの中に持久走を取り入れ、持久走大会と関連付けて体力向上につなげた。	坂元小
			B	・計画的系統的な取組が実践されている。 ・児童数の減少に伴う、行事の内容や計画等の見直しが必要である。	山下小
			A	・水泳や持久走・縄跳びなどの技能を高め、記録会当日は、練習の成果を発揮し、達成感を味わう児童が多かった。	山一小
			B	・水泳記録会を実施する傍ら泳げない子のための水泳教室を行った。	山二小
			B	・郡陸上大会や駅伝大会への参加やスポーツテストの全校実施など、意欲を持って体力作りに取り組む態度を育成できた。外部講師を呼んでの全校トレーニング講習会を行った。	坂元中
			A	・スポーツテストを全校体制で実施することにより、体力向上へ向けての啓発が図れた。	山下中

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成29年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
身体づくり 及び体力・ 運動能力向 上に向けた 取組	授業や行事（中学校は部活動も含む）等を通して、身体づくりについての関心・意欲を高めるとともに、体力・運動能力の向上を図る。	業間を活用した全校一斉の取組など、授業・行事以外の取組の工夫（中学校は部活動も含む）	A	・体力運動能力テストのデータの検証をもとに、業間のマラソンや縄跳びの改善及び継続を図った。	坂元小
			B	・縦割りグループ等を活用した体力向上に向けた取組ができた。 ・児童の主体的な取組を生かした体力向上対策が必要である。	山下小
			B	・1学期は自由遊びで仲間づくりと身体づくり、2学期は持久走記録会に向けた業間ランニング、3学期は縄跳び集会に向けた業間縄跳びを行った。	山一小
			B	・業間たてわり遊びの実施	山二小
			A	・どの部活動も熱心に活動した。	坂元中
			A	・部活動指導において、体力の向上に努める運動に積極的に取り組んだ。	山下中
			【その他の評価指標】児童生徒の体力・運動能力調査結果に見られる改善傾向(小5、中2)	○握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅跳び、ソフトボール投げ、持久走（中学校のみ）のうち、県平均を上回っているもの。 小 男子：握力 女子：握力、上体起こし、50m走、ソフトボール投げ 中 男子：反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅跳び、ソフトボール投げ 女子：反復横とび、20mシャトルラン、50m走、ソフトボール投げ	
	(中学校) 地域人材を活用し運動部活動の充実を図る。	外部指導者の活用	B	・バレーボール（女）部で外部コーチを活用した。郡中総体後は合同チームでの運営となり、あまり活用できなかった。	坂元中
			B	・部活動外部指導者と連携を図り、生徒の体力・技能の向上に努めた。	山下中
			B	・部活動の各種競技について知識のある外部指導者を雇用することにより、生徒の技能の向上に努めた。 ・外部指導者については、現在、県予算にて対応されているが、配置数が段階的に縮減され、平成33年度からは部活動指導員として市町村独自予算となるため、導入の検討が必要である。	学務課
スポーツを通じた心と体の育成	体育振興や健康増進を目的に、各競技団体たサークル活動の支援等を行い、生涯スポーツの充実を図る。	スポーツ推進委員の派遣事業	B	・小学校体力テスト、中学校の親子行事等へ派遣を行いスポーツの推進に努めた。	

(3) 食に関心を持ち、元気な子どもの育成

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成29年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
食育の推進 と充実	児童生徒が望ましい食習慣を身に付け、将来にわたって健康増進が図られるよう、学校給食や栄養教諭等を活用して、計画的に食育を推進する。	栄養教諭等と連携した計画的な指導の充実	A	・本校児童の様子や個別に指導が必要な児童について栄養教諭と情報交換を行い、個別に具体的な手立てを考え、対応することができた。	坂元小
			B	・栄養教諭等を講師に食育についての授業を実施した。 ・全学年での実施に向けて検討する必要がある。	山下小
			B	・2年生での授業（栄養指導）を実施、給食の食材を使って、栄養に関する学習を行った。	山一小
			A	・栄養教諭を招き食育の授業を計画的に行った。	山二小
			A	・栄養士が中心となって、季節の食物についてや成長期や受験期の食事についての指導に計画的に当たった。	坂元中
			B	・家庭科等の授業での「食に関する指導」の充実を年間計画に30年度は組み込んでいく。	山下中
		【その他の評価指標】「朝食を毎日食べてくる」と答えた児童生徒の割合（小6・中3）※「している」「どちらかといえばしている」の計	小：94.0%、中：93.4%		
		学校給食への地元食材の積極的な導入	B	・一部の地元業者についても食材納入業者となっている。 ・野菜に関して品質が一定していないという課題がある。	学務課
	地場産品や町の食文化に触れる機会を設け、子どもたちの食に対する関心・理解を深める。	郷土料理体験の実施（小5 はらこめしづくり）	A	・総合の学習の中に「はらこめし」の郷土料理体験を位置付け、それに携わっている人々の思いや願いなどにも触れることで関心を高めている。	坂元小
			A	・食育やふるさと教育の観点から非常に有意義であった。 ・食物アレルギー等への対応等、検討する必要がある。	山下小
A			・郷土料理体験で、はらこめし・アラ汁・パプリカサラダづくりをすることで、町の食文化に関心を持ち、知識を高めることができた。	山一小	
A			・楽しく学びながらおいしくいただきました。	山二小	
		A	・5年生を対象に「郷土料理体験事業はらこめしづくり」として児童にも調理を体験してもらい毎年好評である。	学務課	

(4) 心身の健康を保つ学校保健の充実

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成29年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
学校保健の 充実	学校保健計画に基づく児童生徒の健康保持増進、家庭や医療機関との連携による学校保健の充実を図る。	健康診断、環境衛生検査等の実施	B	・児童の健康状態を確認し、内科、歯科、耳鼻科、眼科等校医と連携して、確実に健康診断を実施している。	坂元小
			B	・計画的に実施することができた。 ・健康診断は6月までには実施できるよう計画した。	山下小
			B	・学校保健計画に基づき、健康診断、環境衛生検査等を適切に実施した。	山一小
			A	・健康診断・環境衛生検査の実施は100%である。児童の未処置歯所有者割合が56.7%と高いことが課題。	山二小
			A	・計画的に実施した。郡陸上大会や駅伝大会の練習参加者への健康診断や歯科検診後の指導などにも取り組んだ。	坂元中
			A	・計画的かつ適切に健康診断を実施できた。	山下中
			A	・生徒は6月30日まで健康診断を行っている。衛生検査も定期的に行い環境整備に努めている。 ・不登校児童生徒の健診不履行の対処に苦慮している。	学務課
		保健だよりの発行等による家庭との連携	A	・定期的な便りを配布することにより、学校の様子や取組、家庭からの情報などを取り入れ、家庭との連携を図っている。	坂元小
			A	・毎月定期的に保健だよりを発行し、家庭への啓発を図った。 ・PTA総会や役員会等での積極的な情報提供を図る必要がある。	山下小
			A	・保健だよりの発行や保健室前の掲示により、健康への啓発を行った。また個人毎の連絡袋を活用し、プライバシーに配慮しながら、個別対応を行った。	山一小
			A	・保健だよりでは、毎月の保健目標に関連した内容の掲載を行う。また、家庭に対しては受診を促すことを行い連携を図ってきた。	山二小
			A	・保健だよりを定期的に発行した。	坂元中
			A	・定期的にその時期に応じた内容を精選し、保健だよりで保護者への啓発を図った。	山下中
		【その他の評価指標】 児童生徒の肥満率や虫歯の保有率			肥満率：小：11.4% 中：15.4% 虫歯保有率：小：21.5% 中：45.6%

基本方向3 信頼され魅力ある教育環境づくり

(1) 開かれた学校づくりの推進

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成29年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
学校運営等の 自律的改善	教育活動や学校運営の改善に向けて、学校評価、学校評議員制度等の活用・充実を図るとともに、保護者・地域住民の学校運営への参画を進める。	学校評価や学校関係者評価の充実	A	・学校評価アンケートは90%以上の回収率であった。ほぼ肯定的な回答が多く、意見や要望をまとめ、職員で共通理解して公表した。	坂元小
			A	・年間2回の学校評価を実施し、教育活動の改善を図ることができた。 ・学校関係者評価について、評価者をさらに限定する必要がある。	山下小
			A	・学校評価や学校関係者評価、保護者や児童アンケートを実施し、教育活動の改善につなげた。	山一小
			A	・学校評価および学校関係者評価、保護者・児童へのアンケート評価を実施している。	山二小
			A	・保護者、生徒のアンケート結果や学校評議員会での話し合いの内容をすぐに学校運営に生かす体制作りに取り組んだ。	坂元中
			A	・学校評価を数値化し、評価・検証を行うと共に、結果の公表を行った。	山下中
		学校評議員会の開催と学校運営等への反映	B	・年3回の学校評議員会からの意見をまとめ、公表するとともに、随時学校運営に生かすことができた。	坂元小
			B	・年間3回の委員会を開催した。 ・組織を縮小し、小回りのきく体制にしていく必要がある。	山下小
			A	・学校運営に関わる意見等を求めるため、学校評議員会を年2回開催した。	山一小
			A	・学校評議員会を年2回開催し、学校運営に関わる様々な意見を求めた。	山二小
			A	・2回開催し、話し合いの内容はすぐに教職員に伝え、指導に生かした。また、平成29年度は学校評議員による授業参観も行った。	坂元中
			B	・年間2回の評議員会を開催し、意見の集約に努めた。	山下中

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成29年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
学校運営等の 自律的改善	地域人材を活用し、教育活動の充実を図る。	専門的知識や技能を有する地域人材の教育活動への積極的な活用	A	・児童の読書への関心を高めるため、月2回読み聞かせボランティアによる読み聞かせを行い、「楽しみにしている」と答える児童も多くなっている。	坂元小
			B	・各学年の学習内容や学校行事の内容に合わせた外部講師の活用を図ることができた。 ・経費や保険等の裏付けがあるとより活用しやすい。	山下小
			A	・学年の学習内容に応じた関係機関や地域の人材を活用し、専門的な知識や地域の状況を学ぶことができた。	山一小
			A	・地域人材を活用し、学年ごとの指導内容に応じた協力をいただいた。	山二小
			A	・坂元おけさ体験や職場体験、職業人の話を聞く会、話し方教室など地域の方を迎えての学習を行った。	坂元中
			B	・関係諸機関や地域人材をゲストティーチャーとして招き、協働し生徒の指導にあたった。	山下中

(2) 学習環境の整備充実 **重点的事項⑤**

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成29年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
学校施設の 計画的な改修	坂元小学校における校庭改良工事を実施する。	28年度実施設計、29年度施工（補助事業）	A	・校庭改良工事により、校庭土舗装の不陸や排水不良を改善した。 ・植栽した芝生の維持管理が課題である。	学務課
	学校環境整備事業（学校敷地内除草）を実施する。	シルバー人材センター（業務委託）による学校敷地内除草を年2回実施	B	・各校2回ずつ校敷地内除草を実施し、学校環境を整備しているが、一部対応出来ない箇所（坂元中）もある。	
	児童生徒の快適な学習環境を作るため、計画的に校舎等の整備改修を実施する。	老朽化した校舎の改修及びエアコンの整備・トイレ洋式化への切替（学校環境改善交付金の活用）	N	・平成30年度学校施設環境改善交付金に坂元小学校校舎大規模改修事業を申請し、不採択であった。 ・平成31年度以降の事業として再申請する。	
教材教具の 充実	時代に即した学習教材等の充実を図る。	運動用具等の更新及び学校図書等の充実	B	・運動用具等については、毎年、新年度予算編成に併せ、学校と調整を図り、整備に努めている。 ・図書については、毎年クラス数に応じた予算を計上し、新刊購入費等に使用している。	学務課

(2) 学習環境の整備充実 重点的事項⑤

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成29年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
保護者の負担軽減	子育てしやすい環境整備を図るため、各種助成制度や補助金等の創設・拡充を検討し子育て世帯の負担軽減を図る。	入学児童生徒の就学援助（新入学用品）の前倒し支給	N	平成30年度から実施する予定である。	学務課
		学校給食費の補助制度の検討・実施	N	現在検討段階である。（平成31年度から実施で計画）	
		小学校入学祝い金の支給	A	・平成29年度から第3子以降の小学校入学者へ30,000円を支給する事業を開始し、対象者14人に支給を行った。	保健 福祉課

(3) 教職員を支える環境づくりの推進

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成29年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
教職員の健康管理と多忙解消	健康診断事業や勤務時間の把握等を通して、教職員の健康管理、適正勤務について指導支援する。	健康管理対策実施要領に基づく在校時間の把握と指導（タイムカードの導入検討）	B	・水曜日の定時退庁日の推奨などを設定し、適正勤務を支援したり、適正勤務に向けたタイムカード等の在り方なども情報交換している。	坂元小
			B	・金曜日を定時退勤日に設定し、勤務時間の適正な管理に努めている。	山下小
			B	・在校時間記録簿の提出により、時間外勤務の状況を把握し、適正な勤務時間に近づくよう指導している。	山一小
			B	・在校時間個人記録を提出させることにより状況の把握に努め、適正に欠ける場合には指導を行っている。	山二小
			A	・月ごとに在校時間記録簿を提出させ、その都度、指導や助言を行った。	坂元中
			B	・在校時間記録の累積から勤務に関する実態を把握に努め、適宜職員への指導を行った。	山下中
			B	・毎月の在校時間を把握し、長時間勤務者について町医の面接指導を受けられる環境を整えた。（平成29年度実績0人） ・平成31年度にタイムカード等の導入について検討する。	学務課

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成29年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
教職員の健康管理と多忙解消	健康診断事業や勤務時間の把握等を通して、教職員の健康管理、適正勤務について指導支援する。	学校給食費の集金方法の見直し	B	・地区担当者が学校給食費を集金し、納入する方式が根付きつつあり、遅れがちな家庭は直接学校へ持ってくる対応もとるなど、その都度見直しを図った。	坂元小
			B	・全ての集金は口座振替となっている。集金方法については現状のままで良い。 ・未納者への対応を検討する必要がある。	山下小
			N	・学校集金は児童を介して行っており、現在の所、見直しを図る予定がない。	山一小
			N	・金融機関引き落としで行っており、現状問題がないので見直しは行っていない。	山二小
			B	・集金方法は今までと変わらないが、毎月集金日の近くに保護者にメールで知らせるなど、少ない日数で確実に集金できるように工夫した。	坂元中
			D	・共同調理場の会計担当校としての業務が煩雑で業務多忙となっている。公会計への早期切り替えを強く望む。	山下中
			D	町の定期監査時にも事故防止の観点から改善（口座振替）の指導もあり、公会計への切替え	学務課
学校事務共同実施の推進	共同実施の推進・充実により、教員の負担軽減、学校事務の効率化、学校運営支援を図る。	学校事務の共同実施に係る指導支援	B	・各学校事務職員が連携することにより新規採用職員や本町が初めての職員が配置された場合もスムーズに事務を行うことが出来ている。 ・事務官で組織する委員会を定期的に開催しているが、今後、いかに教職員の負担を軽減していくかが課題である。	学務課

基本方向4 家庭・地域・学校が協働して子どもを育てる環境づくり

(1) 親の「学び」と「子育て」を支える環境づくり

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成29年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
親の「学び」と「子育て」の支援	子育てに関するスキルの向上を図るため、子育て期間中の親と、支援を行う関係諸団体等に対し、有益な情報や学習機会を提供する。	子育てサポーターの養成	A	・サポーター、サポーターリーダー養成へ向け、研修への積極的参加につながるよう支援できた。	生涯学習課
			B	・サポーター・サポーターリーダー養成に向け、人材の発掘、研修参加への支援を行った。	保健福祉課

(2) 地域と学校との協働による学校支援の仕組みづくり **重点的事項⑥**

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成29年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
地域学校協働本部の設置・運営と地域学校協働活動の推進	地域学校協働本部を設置し、地域学校協働活動を推進することにより、地域と一体となった協働教育の充実を図る。	地域学校協働本部の設置に向けた要綱の作成、人材の確保、本部の組織化と運営	A	・作成した要綱に基づき、人材確保に努めた。平成30年度の組織発足につなげる準備が整った。	生涯学習課
		地域人材を活用した学校教育活動の支援	B	・人権教育と関連付けて、地域の関連団体との連携により学習することができた。	坂元小
			B	・学校支援コーディネータの支援により、地域人材を活用した教育活動が展開できた。 ・学習等のねらいに沿った綿密な打合せ等が必要になってくる。	山下小
			A	・学校農園の準備から指導までを区長さんをお願いするなど、地域の人材を活用し、学校との連携を深めている。	山一小
			A	・生涯学習課との連携を図りながら、総合的な学習の活動を中心に地域人材を活用した教育活動が進められている。	山二小
			A	・総合的な学習の時間における地域との協働教育に取り組んだ。(坂元おけさ体験、グラウンドゴルフによる敬老会との交流、職場体験学習、保育体験学習など)	坂元中
			B	・学校支援をいただくだけでなく、学校による地域貢献の方策を今後考えていきたい。	山下中
			A	・学校のニーズを把握しながら、地域人材の力をかり、学校支援に当たることができた。	生涯学習課
		放課後子ども教室などの活動を通じ、児童生徒の人間形成を図る。	放課後子ども教室活動の充実	A	・コーディネーターを中心に活動計画を立て、地域人材を活用しながら、体験活動進めた。

(3) 子どもたちの体験活動の推進 **重点的事項⑦**

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成29年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
地域を知り、地域と交流する体験活動の推進	子どもたちの学習・社会活動を充実させるため、地域の教育資源を活用しながら、次世代を担う地域リーダーの育成、地域コミュニティとの連携強化、世代間交流の推進を図る。	地域の教育資源（ヒト・モノ）を活用した世代間交流事業（やまもと楽校等）の実施	A	・子どもも大人もみんなで遊び隊、やまもと学校などの地域活動により、幅広い年齢層での交流や学びの循環につなげることができた。	生涯学習課
		地域の教育資源（ヒト・モノ）を活用した学校と地域との協働による児童生徒への指導	A	・地域人材の専門性を生かした学校での事業づくり、多くの人材による見守り活動を進めることができた。	生涯学習課
		県事業（みやぎ県民大学等）を活用した青年活動の活性化支援	C	・平成30年度実施に向け、宮城県担当部局との調整を行った。	生涯学習課

(4) 家庭教育の充実

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成29年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
家庭教育推進事業	協働教育の一環として、家庭教育学級や家庭教育関連事業の充実を図るとともに、親子のふれあいの機会を拡充し、家庭と地域、学校、行政が一体となって家庭教育の活性化に努める。	家庭教育学級・幼児学級の開催	A	・来年度就学児童及び保護者との連携が強まり、児童の実態の把握や保護者の不安間の解消にもつなげている。	坂元小
			B	・年間計画に基づき、効果的に実施された。 ・学校における指導時数の確保など、新しい学習指導要領に対応した計画づくりが必要である。	山下小
			B	・3回開催し内容の充実を図った。親子のふれあいの機会を拡充し、家庭教育の活性化の一助となっている。	山一小
			B	・年3回開催された。学校からの話をする機会もあり、家庭・学校・行政が一体となる活動が行える機会もあった。	山二小
			A	・年3回の学級開催により、就学へ向けた準備を進め、幼保小の連結につなげることができた。	生涯学習課

基本方向5 伝統・文化の尊重と国際理解を育む教育の推進

(1) 伝統・文化の尊重

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成29年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
歴史や伝 統・文化の 理解と尊重	郷土に対する誇りや愛着を育むた め、地域に伝承する文化財等に触れ 親しむ機会を提供する。	(小学校) 社会科副読本の改訂版作成と配布 (平成32年度改訂、配布)	B	・副読本を作成する中で、改めて故郷の良さに気付き、それを職員間で共有したり、児童とどのように結びつけるかを考えたりすることができた。	坂元小
			B	・主として中学年において活用を図ることができた。 ・新学習指導要領のねらいや地域の実情に合わせた副読本の編集が進行中である。	山下小
			B	・平成32年度の改訂版発行に向けて副読本の構成と資料収集について話し合った。	山一小
			B	・改訂版の発行に向け話し合いが行われた。	山二小
			A	・副読本編集委員会の立ち上げ、沿岸地域の他市町村の副読本改訂についてアンケートを行った。 ・平成30年度中に編集ページをある程度完成させる必要がある。	学務課
歴史や伝 統・文化の 理解と尊重	郷土に対する誇りや愛着を育むた め、地域に伝承する文化財等に触れ 親しむ機会を提供する。	歴史民俗資料館に収蔵されている地域の歴史資料等を活用した歴史授業の実施	B	・学年の学習内容と関連付けて資料を活用したが、資料等の内容や効果的な活用方法の理解不足により授業に活用することが難しかった。	坂元小
			B	・3学年の社会科の学習で活用した。 ・活用に向けた交通方法、収蔵物リスト、出前講座の実施など、より活用しやすい工夫があると良い。	山下小
			B	・地域学習において歴史民俗資料館や伝承館を見学することで、町の歴史や文化に関心を持ち、理解を深めることができた。	山一小
			A	・3学年の学習として歴史民俗資料館に行き、収蔵品等を活用した学習が実施できた。	山二小
			B	・中学校の歴史授業の中では取り上げなかったが、3年生で地域の方から山元町の歴史について講話をいただいた。	坂元中
			N	利用無し	山下中

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成29年度		担当課 学校等	
			評価	成果と課題		
歴史や伝 統・文化の 理解と尊重	郷土に対する誇りや愛着を育むた め、地域に伝承する文化財等に触れ 親しむ機会を提供する。	神楽や太鼓など、地域に受け継がれている無形 文化財を活用した授業等の実施	A	・「こども神楽」や「子どもおけさ」の伝承を通して思い や願いを知り、発表したり地区民と交流したりすることが できた。	坂元小	
			N	・活用なし	山下小	
			B	・学習発表会で児童がぶち合わせ太鼓を披露し、郷土の誇 りや愛情を育むことができた。	山一小	
			A	・山二輪太鼓・笠浜甚句・花釜音頭等伝統文化を大切にす る授業を展開した。	山二小	
			A	・1年生で坂元おけさ体験を実施し、文化祭で発表した。	坂元中	
			N	・活用なし	山下中	
	地域と関わる活動や体験の推進			A	・地域の特産物から地域の特性を知り、「いちご」や「り んご」の学習、「はらこ飯」等の食文化を体験している が、学習への深みが感じられるようにしたい。	坂元小
				B	・一部の地区子供会で地域と関わる活動が行われているこ とにとどまっている。 ・地域やPTAがイニシアティブをとる在り方も検討する 必要がある。	山下小
				A	・3年生では、歴史民族資料館に行き、収蔵品等を活用し た学習をしたり、6年生で防潮林の植林をするなど地域と 関わる活動や体験活動ができた。	山一小
				A	・つばめの杜公園管理会・グリーンベルトプロジェクト等 地域に関わる体験的活動を実施した。	山二小
				A	・坂元おけさ体験や地域の敬老会とのグラウンドゴルフ交 流会、職場体験、職業人の話を聞く会、話し方教室など地 域の方を迎えての学習・交流を行った。	坂元中
				A	・ふれあい産業祭にボランティアとして協力参加した。	山下中

(2) 国際理解を育む教育 重点的事項⑧

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成29年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
国際理解教育の推進とコミュニケーション能力の育成	地域や日本の伝統・文化とともに、他国の歴史や文化に対する理解を深めさせ、国際化社会で活躍できる人材を育成する。	各教科等での指導を通じた異文化理解とそれを尊重する態度の育成	B	・社会科の中で世界の国々の暮らしや文化、日本とのつながりを学び、外国語の学習の中でALTの母国の異文化に触れることができた。	坂元小
			B	・外国語活動や総合的な学習の時間を活用し、国際理解交流会を開催し、交流を図った。 ・交流のための予算的裏付けが必要である。	山下小
			B	・教科等の学習により、他国の歴史や文化に対する理解を深め、尊重しようとする態度を育むことができた。	山一小
			B	・国際理解教育に関しては各教科での指導ではないものの外国語活動を通して行っている。	山二小
			B	・機会を見て指導に当たった。	坂元中
			B	・アフリカの音楽についての、ドラムコンサートを実施した。	山下中
		地域人材やALT等を活用した交流（体験）活動の推進	A	・外国語の学習の中で、ALTとのインタビューゲームやハロウィン、クリスマス等の日本との文化の違いについて知ることができた。	坂元小
			B	・ALTとは積極的な交流が図られ、児童の異文化理解につながった。 ・地域内の人材を活用するための人材バンクのような整備が求められる。	山下小
			B	・外国語活動等でALTと学習することにより、国際理解が進み、コミュニケーション能力を身に付けてきた。	山一小
			B	・ALTとの交流体験活動を重視した外国語活動教育が行われている。	山二小
			A	・ALTを活用し、英語の授業だけでなく、様々な場面で生徒との交流を図った。	坂元中
			A	・英語暗唱弁論大会の指導等でALTを積極的に活用した。	山下中

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成29年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
国際理解教育の推進とコミュニケーション能力の育成	地域や日本の伝統・文化とともに、他国の歴史や文化に対する理解を深めさせ、国際化社会で活躍できる人材を育成する。	小・中学校へのALTの配置と活用	A	・ALTの配置により児童が楽しく活動に取り組んでいるだけでなく、外国語補助指導員との連携による相乗効果も見られている。	坂元小
			A	・年間を通して計画的に配置されている。 ・ALTの個人差により、指導の効果に差が出ることが多い。	山下小
			A	・日本語も理解できるALTが配置されており、子どもたちも楽しんで活動に取り組んでいる。	山一小
			A	・週1回ではあるものの、ALTの配置により楽しい活動がくり広げられコミュニケーション能力の向上につながっている。	山二小
			A	・配置され活用した。	坂元中
			A	・英語の教科指導はもちろん、部活動や行事においても積極的活用を図った。	山下中
			B	・小学校担当ALT1名、中学校担当ALT1名を配置し、外国語教育や外国文化の理解を深めさせることが出来たが、中学校担当ALTが中途退職したことから、5月から7月まで欠員が出てしまった。 ・小学校担当ALTの配置の検討（勤務日数、雇用形態等）が必要である。	学務課
			新学習指導要領に対応するため小学校への外国語指導補助員の配置と活用	N	・平成30年度から町雇用の小学校外国語指導補助員を配置し、各小学校を巡回指導させることとした。

山元町教育振興基本計画アクションプランに基づく点検評価表

基本方向6 生涯にわたる学習・文化・スポーツ活動の推進

(1) 地域をつくる生涯学習・文化芸術の推進

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成29年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
生涯学習・ 文化芸術の 振興	生涯学習関係機関並びに文化芸術団体等と連携を図り、生涯学習・文化芸術に身近に親しむ機会を提供する。	国や県の事業（巡回小劇場等）の積極的な活用	B	・申し込みはしたものの選外になったため、独自に本物にふれさせるための宮教大のオーケストラの演奏会を企画し、実施した。	坂元小
			A	・巡回小劇場等を活用することができ、無償で本物の芸術文化に触れることができ、豊かな情操を育成することができた。 ・保護者の経済的負担を考慮し、今後も国や県の事業を活用していきたい。	山下小
			A	・平成29年度山下小学校で開催。本事業実施報告において本物の舞台芸術に触れる機会を通して、芸術を愛する心を育て、豊かな心を養うことに大きく寄与したとの報告がなされた。	生涯 学習課

(2) 文化財の保護と活用

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成29年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
文化財の保 存・保護	各種文化財の適切な保存・展示及び活動場所の環境整備に努め、文化財保護の普及・啓発を図る。	文化財標柱の更新等	A	・平成29年度は町指定文化財茶室及び板倉の説明版を設置。文化財標柱については、今後も町内遺跡や町指定文化財を中心に設置し、文化財の周知を図っていく予定。	生涯 学習課
		町指定文化財「茶室」とその周辺の活用方法等の検討	B	・平成29年度は茶室の劣化防止のための仮養工事、敷地境界の竹柵改修工事を実施するとともに、茶室の今後の取り扱いに関し、教育委員会の諮問に対する文化財保護委員会の答申を提示し、今後の検討課題について一定の方向性を示した。	生涯 学習課

(3) 生涯スポーツ社会の実現に向けた環境の充実 **重点的事項⑨**

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成29年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
社会体育施設 の整備・ 充実	競技人口の推移を見据えた長期的な 視点での活用計画を検討する。	町民グラウンドの復旧及び備品等の整備	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県による復旧工事により、仮設住宅が解体撤去され、アスファルト舗装や埋設管の撤去が進められたが、埋蔵文化財保護法に基づく発掘届が提出されていなかったことから、復旧時期が延伸となった。今後は、町でも県工事の施工監理を行うべく、県及び受注者と調整を行った。</li> <li>・備品については、町民グラウンド定期利用団体4団体とH30.1月～3月に意見交換会を行い、グラウンドの復旧時期に合わせて発注準備を行っている。</li> </ul>	生涯 学習課
		町民グラウンドの機能拡張を図るための計画・ 設計	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町民グラウンド定期利用団体4団体とH30.1月～3月に復旧に係り意見交換会を行いながら進めており、拡張後のグラウンド面積から各競技の公式コートサイズを最適に配置した基本計画図を作成、H30年度は機能拡張のための測量設計業務を発注予定である。</li> <li>また、経年劣化が著しい外周柵については、先行して工事発注を行っている。</li> <li>・課題としては、グラウンド北西部の町道5103号真庭名東団地1号線におけるクランク解消を目的とした道路改良設計業務との相互調整等が挙げられる。</li> </ul>	
	体育文化センター等の施設の修繕及 び器具の更新を計画的に実施する。	スポーツ振興くじ等を活用した運動器具の更新	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・助成事業を積極的に利用しトレーニング室設置の器具3台の更新を行った。更新後、利用者数が増えていることから器具更新の効果が見られた。次年度においても器具更新予定。</li> </ul>	
学校施設の 開放推進	社会体育施設と緊密に利用調整を行 い、各施設の効果的な利活用を図 る。	効率的かつ効果的な利活用の促進	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的にご利用する団体と不定期で行う日の調整等、連絡を取り合って問題なく活用している</li> </ul>	坂元小
			B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の校庭や体育館は計画的に開放し、利用されている。</li> <li>・利用団体一覧表の提供があるとよい。</li> </ul>	山下小
			C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校庭や体育館を計画的に利用している。ただ、屋外設置の簡易トイレが旧式で管理が不十分なため、効果的な利活用を阻害する原因になっている。</li> </ul>	山一小
			B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的にご利用する団体は決まっている。それ以外に単発的な利用申込みには適宜対応している。</li> </ul>	山二小
			A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動や学校行事などを考慮し、開放している。町体育文化センターが工事中の時は、利用団体を調整して開放した。</li> </ul>	坂元中
			A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事や部活動の状況を確認し、開放可能な場合は積極的に利用いただいている。</li> </ul>	山下中
			B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校において、効率的かつ効果的な利活用について促進に努めている。</li> </ul>	学務課

基本方向7 防災教育をととした命を守る意識の高揚

(1) 防災教育の推進、充実 **重点的事項⑩**

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成29年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
大震災の教訓を生かした防災教育の推進	学校における防災教育を通して、「自助」「共助」の重要性の理解、減災につながる技術の習得等を図る。	計画に基づいた総合的な学習、各教科等での防災教育の推進	B	・総合的な学習等の中に、年間10時間を位置付けたみやぎ防災教育副読本「未来への絆」を活用した防災教育を実践している。	坂元小
			B	・学校防災マニュアルを整備するとともに、総合的な学習の時間に防災教育を位置付けている。 ・児童が主体的に関わる防災教育の在り方を検討していく必要がある。	山下小
			A	・防災教育計画に基づき、防災学習を積み重ねることができた。	山一小
			B	・学校所在地が変わったことによる細かな計画の見直しが必要となった。	山二小
			A	・避難所開設訓練など、計画的に取り組んだ。	坂元中
			B	・校内総合防災訓練は内容を工夫し実施されているが、教科等での防災教育への取組は不十分である。	山下中
		みやぎ防災教育副読本や町社会科副読本等を活用した指導の充実（小学校H 32～）	A	・発達段階に応じて、みやぎ防災教育副読本の内容を精選し、系統立てて実施している。	坂元小
			B	・学級活動、社会科等で計画に基づき活用を図った。 ・活用しての評価等を累積し、より効果的な活用方法について吟味していく必要がある。	山下小
			B	・みやぎ防災教育副読本は、教育計画に位置付けられ防災教育の中で活用している。	山一小
			A	・防災教育の年間計画に位置づけられ、学年に応じた内容を副読本を活用しながら指導している。	山二小
	A		・防災についての学習時に使用した。	坂元中	
	C		・副読本の具体的な活用方策に一考を要する。	山下中	
	B		編集集中の副読本に、新しい項目として「震災復興」の追加、「防災教育」のページ増をすることで調整したが、掲載内容や情報収集について課題である。	学務課	

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成29年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
大震災の教訓を生かした防災教育の推進	学校における防災教育を通して、「自助」「共助」の重要性の理解、減災につながる技術の習得等を図る。	校内における避難訓練の実施など	A	・教師主導型の避難訓練に加え、いろいろな想定での避難ルートの確認や「落ちてこない・倒れてこない・動いてこない」が判断できるような訓練も実施している。	坂元小
			B	・年間計画に基づき、年3回の避難訓練を実施し、防災意識と知識理解の向上に努めた。 ・登下校時の避難訓練等、より実情に合う避難訓練の実施も検討する必要がある。	山下小
			A	・計画に加えて、弾道ミサイルに対する防災訓練等を実施した。事前・事後指導やショート訓練等も行い、児童の意識を高め、確実に行動できるよう指導してきた。	山一小
			A	・地震・津波・火災・ミサイル想定避難訓練の他、防犯訓練・集団下校訓練・引き渡し訓練等を計画に基づき実施した。	山二小
			A	・計画的に実施し、意識を高めた。	坂元中
			A	・消防署等の関係諸機関と連携を図り計画的に実施している。	山下中
	宮崎市との交流事業により、防災意識の高揚を図る。	隔年で相互訪問	A	・宮崎市へ5名参加。内容について文化祭で全校に発表した。	坂元中
			C	・防災教育の一環としての位置づけが曖昧である。	山下中
			A	平成29年度は本町中学生が宮崎市を訪問し、震災当時の様子、学校の防災の取組等を発表し両市町生徒の防災意識を高めることが出来た。	学務課
	町施設を活用した防災学習を推進し、各種事業を通して防災に対する意識高揚を図る。	町防災拠点施設での防災学習	C	・低学年の町探検等で施設の見学はしたが、教育課程に位置付けてはいなかった。	坂元小
			D	・具体的な学習は展開していない。 ・防災拠点施設と協議しながら、どのような活用が可能なかを吟味し、計画に反映させたい。	山下小
			B	・山元町防災拠点・山下地域交流センター「ひだまりホール」に行き、見学や学習をする機会を設けた。	山一小
			C	・防災拠点施設を活用した防災学習については平成30年度実施に向け検討を始めた段階である。	山二小
			B	・平成30年度実施を検討中。	坂元中
D			・利用実績無し	山下中	
C			・平成30年度の防災キャンプ開催に向けた準備を行った。	生涯学習課	

(2) 地域の自主防災訓練や町総合防災訓練への参加

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成29年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
関係機関等との連携	東日本大震災の被災経験を生かすため、地域・関係機関等との連携を密にし、地域・町を挙げて防災教育の推進・充実を図る。	・学校及び幼稚園・保育所・町危機管理室等による防災担当者の開催とその充実	A	・町の防災対策や地域連携について意見交換ができていたことはよかった。ただ、町の方針として、具体的な場面での判断基準が示されるとよい。	坂元小
			B	・防災主幹を中心に関係機関との連携を図る取り組みがなされている。	山下小
			B	・防災担当者の開催により、情報を共有するとともに関係機関と連携しながら防災教育について考えることができた。	山一小
			B	・防災担当者により関係機関との連携を図る機会となった。	山二小
			B	・担当者が参加し、情報を教職員で共有した。	坂元中
			B	・担当者会において、定期的に情報交換がなされている。	山下中
			A	・定期的に防災担当者会に出席し、児童・生徒参加型の防災訓練について協議し、連携を図ることが出来ている。	学務課
児童生徒の防災訓練への参加	町総合防災訓練並びに地域で行われる自主防災訓練に積極的に参加させ、災害発生時の対応力を身に付けさせる。	・学校を登校日とした町総合防災訓練への参加(居住地域ごとの避難訓練及び研修)	B	・登校日に設定し、居住地ごとに地区の訓練に参加し、訓練の中で自分ができることも考えることができた。担当教諭も、訓練に参加し、情報交換ができた。	坂元小
			B	・総合防災訓練への地域住民の参加が少ないのではないかと思われる。参加者数を確保するための登校日設定は検討する必要がある。	山下小
			B	・登校日とすることで、家族で地域の訓練に参加する児童が多かった。回数を重ねることで、町総合防災訓練についての理解が深まっている。	山一小
			A	・町総合防災訓練を登校日とすることへの理解が深まってきていると参加状況から感じることができる。	山二小
			A	・登校日として参加し、地域の一員として様々な体験などに取り組んだ。	坂元中
			B	・授業日として生徒を参加させているが、各行政区毎の研修内容に一考を要する。	山下中
			A	・学校を登校日とすることで、児童生徒が参加する環境を整えることで、災害発生時の対応力を身に付けさせることに繋がっている。	学務課
A	・児童、生徒が参加することにより、その保護者も含めた避難行動の意識付けが図られていると思われる。さらに、高学年児童及び生徒にあつては、有事の際の避難所等における自分の役割に対する理解も深まってきており、地域においても即戦力として期待されている。	総務課			

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成29年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
児童生徒の 防災訓練へ の参加	町総合防災訓練並びに地域で行われる自主防災訓練に積極的に参加させ、災害発生時の対応力を身に付けさせる。	・地域で行われる自主防災訓練への積極的な参加の呼びかけ	B	・地域での自主防災訓練があまりない状況ではあるが、宮城防災の日や県、国の防災関連の行事など日常的な指導に取り入れて働きかけている。	坂元小
			N	・学校として、地域で行われる自主防災訓練の日程や内容について情報がないのが実情である。	山下小
			B	・地域で行われる自主防災訓練について把握し、災害発生時の対応力を高めるために参加し、学ぶ必要があることを継続して指導する。	山一小
			A	・地域で行われる自主防災訓練についても積極的に参加している様子が見られる。	山二小
			B	・地域で行われる行事については、参加の呼びかけを行っている。	坂元中
			C	・自主防災訓練等の学校へ周知されない事が多く、生徒への参加呼びかけが困難である。	山下中

### (3) 震災遺構の活用

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	平成29年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
旧中浜小学校 震災遺構 保存活用事業	東日本大震災の脅威・教訓を風化させることなく伝承し、後世に防災・減災の意識・知識を向上させるため、震災により被災した旧中浜小学校を「震災遺構」として保存・活用を図る。	震災遺構としての整備・保存	B	・復興交付金を活用し、H29.12月に校舎改修設計業務及び展示設計業務を発注済み。来年度は、建築基準法を適用除外すべく、保存条例の制定や県建築審査会への保存建築物指定申請、改修工事費等の実施設計業務を行う。 ・課題としては、管理手法や減免措置を踏まえた料金徴収有無など、ソフト面の整備が挙げられる。	生涯 学習課

### 点検評価の集計

担当学校等	評価項目数	A		B		C		D		N	
		項目数	%	項目数	%	項目数	%	項目数	%	項目数	%
坂元小学校	50	31	62.0	17	34.0	1	2.0	0	0.0	1	2.0
山下小学校	50	13	26.0	32	64.0	0	0.0	1	2.0	4	8.0
山下第一小学校	49	24	49.0	22	44.9	1	2.0	0	0.0	2	4.1
山下第二小学校	49	32	65.3	12	24.5	3	6.1	0	0.0	2	4.1
坂元中学校	45	27	60.0	16	35.6	0	0.0	0	0.0	2	4.4
山下中学校	45	21	46.7	17	37.8	3	6.7	2	4.4	2	4.4
学務課	27	13	48.2	11	40.7	0	0.0	1	3.7	2	7.4
生涯学習課	15	11	73.3	1	6.7	3	20.0	0	0.0	0	0.0
合計	330	172	52.1	128	38.8	11	3.3	4	1.2	15	4.5

## IV 学識経験者の意見書

### ◇ はじめに

東日本大震災から7年目を迎え、その間に山元町子どもセンター、山下第二小学校、山元町防災拠点・坂元地域交流センター、同・山下地域交流センターが完成し、常磐線の再開通、常盤道 山元南 SIC 開通など「山元町震災復興計画」の下に本町の復興は順調に進行し、各学校における教育活動も着実に実施されている。

また、平成29年3月には「山元町教育振興基本計画」が策定され、本町における教育振興を総合的かつ計画的に進めるとともに重点事項を中心に実践的な取り組みが開始されている。

従来から指摘されてきたことではあるが、阪神・淡路大震災等の大規模な被災地域においては児童生徒の生徒指導上の問題が長期にわたっているなど様々な課題が報告されている。このことについては本県においても中学生等の深刻な「いじめ問題」や「不登校」の状況が発生していることから本町においても、常に課題意識を持って日々の教育活動に取り組んでいかなければならないことに留意する必要がある。

昨年に引き続き意見を述べる機会をいただいたので、平成29年度の取り組みと成果を見ていきたい。

#### 1 教育委員会の活動について

教育委員会制度の改正に伴い、教育委員長と教育長を一本化した教育長のリーダーシップの下に課題に迅速に対応できるようになった。「定例会」、「臨時会」、「山元町総合教育会議」、「教育委員による教育機関訪問」がそれぞれ適正に実施され、所定の事案等が適正に審議、処理されている。

#### 2 教育関係経費決算の状況

教育関係経費が適正に正確に執行処理されていることが明確である。文教施設災害復旧費など大きな予算であり、国民の貴重な税金が使われていることを改めて肝に銘じて教育行政と教育活動にあたっていただきたい。

#### 3 学校教育の充実

##### (1) 小・中学校再編検討について

小・中学校の再編等について総合的な検討を行うため、再編検討委員会が設置され6回にわたる検討委員会の開催、住民意向調査、教職員ヒアリング、丸森町視察研修などが実施された。小・中学校の再編は極めて大きな課題なので、更に慎重かつ長期的な展望をもって検討されることを期待している。

##### (2) 山元町いじめ問題対策連絡協議会について

本町では平成28年11月13日にいじめ問題対策連絡協議会を開催しいじめ防止対策について協議が行われた。29年度において5件の認知があり、学校と保護者が連携して指導にあたり、4件が解消し1件は継続指導中とのことである。大きな問題が発生していないことは誠に喜ばしいことであり高く評価したい。今後とも迅速・丁寧な対応により、全ての児童生徒が「いじめのない学校」で安心して学校生活をおくっていくことを願っている。

### (3) 学力向上に向けた教育講演会について

教育指導力向上を目的として宮城教育大学上廣倫理教育アカデミーを講師として開催された。

同アカデミーの方々には義務教育の学校現場において指導的な立場で豊富な経験を持つ方々であり、本町の教育力の向上に大いに資するところがあったものと推察される。また、本町の教育職員の約7割の参加があったことも高く評価したい。

### (4) 学校給食の概要について

社会環境と家庭環境の変化、多様化による様々な課題が社会問題化している中で、学校給食の果たす役割は大きくなっている、様々な課題に対応しながら安定的な学校給食が維持されていることには敬意を表したい。また、本町には栄養教諭が配置されていることにより、食育の面から大きな教育効果が期待できる。

## 4 生涯教育の推進について

本町において多種多様な生涯教育に関わる活動が活発に行われてことが資料から読み取れ、関係各位のご努力に敬意を表したい。

## 山元町教育振興基本計画アクションプランの基づく点検評価表について

教育委員会並びに各学校における教育活動等の評価については、A：90%以上 B：70%～C：40%～ D：40%未満 N：評価不能 という方式で自己評価されている。厳しい視点から真摯に自己点検・自己評価に取り組んでいることが窺え、教育に携わる者の一人として、また一町民として各学校の取組みに敬意を表したい。本年度はアクションプランの1年目であることから概括的なコメントとしたい。

### 基本方向1 学ぶ力と自立する力の育成について

#### (1) 「志教育」の推進について

各具体的な取組については各学校ともに概ね高い評価となっている。

特に「将来の夢や目標を持っている」について小6：88.1% 中3：69.3% 「人の役立つ人間になりたいと思う」について小6：92.6% 中3：91.2%と高い数値であったことは高く評価できる。但し「将来の夢や目標～」が中3で18.8ポイント低くなっていることについては、各学校で適正に指導されることを期待している。

#### (2) 基礎的な学力の定着と活用する力の伸長 重点事項①について

各具体的な取組については各学校ともに概ね高い評価となっているが、「家庭学習時間」については小6：47.8% 中3：74.8%となっている。「家庭学習時間」の習慣化は極めて重要な事項であるので、各学校で改善のための具体的な取組をお願いしたい。また、家庭における指導も必要なので学校と家庭の連携について具体的な取組により改善されることを期待している。

#### (3) 学校間、幼稚園・保育所・小学校の連携促進 重点事項②について

各具体的な取組については各学校ともに概ね高い評価となっているが、学校間の授業参観については未実施の学校があった。異なる学校間での授業参観から得

られる教育情報は極めて有意義である。指導主事訪問時と限定せずに活発に行われることを期待している。他の教員の授業を参観すること自体が効果の大きい、しかも予算を要しない研修である。筆者は高校での教職経験が長い、中高一貫校設立のために中学校の授業を数多く見学するという得がたい経験をしたことがある。そのことにより高校と中学校の授業スピードの違いに気づかされた。中学校の先生方は様々な教材・教具を使用して丁寧な指導を行っている。生徒たちが高校入学と同時にハイスピードの授業になれば、多くの生徒が不適應を起こすことになる。高校での導入期には授業スピードに留意する必要があることに気づかされ多くの高校で共有され高校1年生の導入期指導に活かされている。

#### **(4) 時代の要請に堪えた教育の推進について**

各具体的な取組については各学校ともに概ね高い評価となっているが、情報関係の指導は重要となっているので、各学校で積極的に実施されることをお願いしたい。

#### **(5) 一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進について**

各具体的な取組については各学校ともに概ね高い評価となっている。

### **基本方向2 豊かな人間性や社会性、健やかな身体の育成について**

#### **(1) 感性豊かでたくましい心を持つ子どもの育成と支援 重点事項③について**

各具体的な取組については各学校ともに概ね高い評価となっている。

スクールカウンセラーの活用については定着しているが、スクールソーシャルワーカーについては今後の取組が重要である。小6:89.6% 中3:84.7%が「学校に行くのは楽しい」というのは高く評価できる。但し、小6の10.4% 中3の15.3%が楽しいとしていないことは気になるところである。

#### **(2) 健康な身体づくりと体力・運動能力の向上 重点事項④**

各具体的な取組については各学校ともに概ね高い評価となっている。

#### **(3) 食に関心を持ち、元気な子どもの育成について**

各具体的な取組については各学校ともに概ね高い評価となっているが、小6の6%と中3の6.6%が昼食まで何も食べないで授業を受けていることになるが、このことには驚かされた。改善への努力に期待する。

#### **(4) 心身の健康を保つ学校保健の充実について**

各具体的な取組については各学校ともに概ね高い評価となっているが、肥満率、虫歯の保有率が高いようである。改善への努力に期待する。

### **基本方向3 信頼され魅力ある教育環境づくりについて**

#### **(1) 開かれた学校づくりの推進について**

各具体的な取組については各学校ともに概ね高い評価となっている。

#### **(2) 学習環境の整備充実 重点事項⑤**

各具体的な取組については各学校ともに概ね高い評価となっている。

#### **(3) 教職員を支える環境づくりの推進について**

各具体的な取組については各学校ともに概ね高い評価となっているが、教職員の多忙化解消については更なる努力と工夫を期待する。大きな課題である。

### **基本方向4 家庭・地域・学校が協同して子どもを育てる環境づくりについて**

#### **(1) 親の「学び」と「子育て」を支える環境づくりについて**

各具体的な取組については各学校ともに概ね高い評価となっている。

- (2) 地域と学校との協働による学校支援の仕組みづくり 重点事項⑥  
各具体的な取組については各学校ともに概ね高い評価となっている。
- (3) 子どもたちの体験活動の推進 重点事項⑦  
各具体的な取組については各学校ともに概ね高い評価となっている。
- (4) 家庭教育の充実について  
各具体的な取組については各学校ともに概ね高い評価となっている。

#### 基本方向5 伝統と文化の尊重と国際理解を育む教育の推進について

- (1) 伝統・文化の尊重について  
各具体的な取組については各学校ともに概ね高い評価となっている。
- (2) 国際理解を育む教育 重点事項⑧  
各具体的な取組については各学校ともに概ね高い評価となっている。

#### 基本方向6 生涯にわたる学習・文化・スポーツ活動の推進について

- (1) 地域をつくる生涯学習・文化芸術の推進について  
各具体的な取組については各学校ともに概ね高い評価となっている。
- (2) 文化財の保護と活用について  
各具体的な取組については各学校ともに概ね高い評価となっている。
- (3) 生涯スポーツ社会の実現に向けた環境の充実 重点事項⑨  
各具体的な取組については各学校ともに概ね高い評価となっている。  
また、山下一小の屋外トイレの問題が指摘されていたが、災害時には緊急用としては有用かもしれない。

#### 基本方向7 防災教育をとおした命を守る意識の高揚について

- (1) 防災教育の推進、充実 重点事項⑩  
各具体的な取組については各学校ともに概ね高い評価となっているが、被災地の学校として防災教育の先進地となるべく更なる努力をお願いしたい。  
さらに、近年の災害の状況を考慮すると従来型ではない災害への対処についても点検、研究をお願いしたい。例えば「竜巻注意報」が本町においても発令されることがあるが、対処マニュアルは十分であろうか。ガラスを多用した学校建築は竜巻など突風型災害には脆弱である。また、本県は地震・津波対策は進んでいるが、他の災害への対応は全般的に遅れている点もある。点検をお願いしたい。
- (2) 地域の自主防災訓練や町総合防災訓練への参加について  
各具体的な取組については各学校ともに概ね高い評価となっている。
- (3) 震災遺構の活用について  
被災地として防災教育の先進地となるべく更なる努力をお願いしたい。

尚綱学院大学

学長補佐（高大接続担当）

特任教授

元仙台市立仙台高等学校長

渡邊 典男

## V 参考法令

### 地方教育行政の組織及び運営に関する法律 ～抜粋～

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなくてはならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。